
地獄の拳と不屈の魔法少女

ファントム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地獄の拳と不屈の魔法少女

【Nコード】

N2463Q

【作者名】

ファントム

【あらすじ】

俺は死んだ…

兄貴に殺してもらった…

けど…

なんで生きてるのかなあ!?

しかも、目を覚ましたら、日なた側の住人に家族宣言されたよ、兄貴

仮面ライダーパンチホッパーとリリなのクロスです

地獄から蘇った弟（前書き）

多くのタイトル募集ありがとうございます!!

応募してくださった

断空我さん

霞 空斗さん

疫病神さん

ブラッキンさん

本当にありがとうございます!!

ちなみに、短編に加筆しただけです

地獄から蘇った弟

ある星の

ある国の

ある港に・・・

2人の男がいた

しかし、男の一人は息を切らして苦しそうにしていた

そして、苦しんでいた方の男が口を開いた

????

「俺は…兄貴も知らない暗闇を知ってしまった…」

なんで俺がこんな目に……

????

「連れて行って欲しかったけどさ…」

どうして俺なのさ…?

????

「俺はもう、一生この暗闇から出れないよ……」

さようなら…俺が初めて懂れた人

男は言い終わると、一瞬、カブトムシの角のようなものが生えた緑色の怪物に姿を変え、そしてバッタの機械のようなものを自分のベルトにはめ込む

すると、男の姿はどんどん茶色いバッタの鎧に包まれていく

???

「さよならだ…兄貴」

さようなら…初めて俺に振り向いてくれた人

兄貴

「相棒おおおおお!!!!!!!!」

さようなら………

大好きな俺だけの兄貴

そこで、茶色いバッタ・・・パンチホッパーの意識は無くなった

???

「……………あれ？」

…俺は…確かに兄貴に…

だったら、なんで…

俺はなんで生きているのさ…？

…とりあえず、俺の名前は影山瞬^{かげやましゅん}

あのムシケラ^{フォーム}と戦ってきたマスクドライダー…

???

「あの、大丈夫ですか？」

ここはどこで、目の前にいる、茶髪ツインテールのガキは誰なのさ？

ガキ

「おとうさーん、起きたよー！」

???

「本当か！？分かった、少し待ってくれ」

少し時間を置いて、大人が一人来た…若いな。

???

「目を覚ましてよかったよ…ところで君はどうしてあんなところにいたんだい？」

影山「あんなところって…というより、あんだ誰？」

???

「ああ、すまない。申し遅れたね、私は高町 士郎だ」

ガキ

「私は高町 なのはっていうの！君は？」

なれなれしいガキだな・・・でも、俺にはそんな扱い程度がちょうどいいさ・・・

影山

「影山…瞬」

なのは

「じゃあ瞬君だね！」

…これはさすがに聞き流せないな……

影山

「おい、ガキ 大人はもっと敬意を払え」

相手はガキだからできるだけ優しく言う・・・クソッ！

なのは

「ふえ…！でも、瞬君、私とおんなじくらいの年だね・・・？」

影山

「はあ？俺は・・・」

そこまで言っただけだった・・・

縮んでる・・・？

部屋にあった置き鏡を見てみると、俺の体はちょうど小3くらいの時まで若返っていた

本当にワケ分かんないよ…

士郎

「・・・なにか事情がありそうだね？あんなところにいたくらいだし」

影山

「あんなところって…どこにいたのさ？」

士郎

「ゴミ捨て場だよ…なのはが男の子が捨てられているといったときは驚いたよ」

影山

「ゴミ捨て場…俺にぴったりじゃないか…」

士郎

「・・・え？」

なのは

「あはは！瞬君面白いの！」

どうやらガキの方は「冗談だと思ったみたいけど・・・大人の方は理解したみたいだ

士郎

「君、家族は？」

家族…

そうだ、兄貴は！？

影山

「兄貴、兄貴は！？」

士郎

「お兄さんがいるのかい！？」

影山

「この腐った世界で唯一、俺に振り向いてくれた人だ！！」

…そうだ、…でも、俺はもう兄貴に会えないんだっ…

なのは

「瞬君大丈夫？とつても辛そうな顔してるの…」

うるさい、お前なんかに分かるのさ？

そう言おうと思ったけど、もうどうでもいいや…

俺は何で生きてたのか知らないけど…

ワームになるくらいならもう一度死んだ方がマシだ…

そこからの質問は適当に流した…

別に覚えておく価値のある話じゃないしね

俺は兄貴からもらった服を返してもらい（服も縮んでた）、その家・
・というか店から出て行こうとしていると…

士郎

「ああ、家まで送るよ。家はどこだい？」

なんて訊いてきた…

影山

「家なんか無いさ… 必要ないし、光を求めたらいけないのさ… あ、
あの犬ほ褒められてる、いいなあ」

俺が犬をうらやましがっていると・

士郎

「・・・君、ここに住みなさい」

・・・はあ？

なのは

「瞬君ここに住むの！？よろしくね！」

影山

「なんでそうなるのさー!!」

俺がそう言い返すと

なのは

「いやなの・・・？」

涙目&上目遣いで見てきたが

影山

「絶対に嫌だね！！」

そもそも、俺は死ぬつもりだし、こんな幸せそうな日なた側の奴らと暮らすなんて考えるだけで虫唾が走る！

士郎

「何か不満があるんだったら聞くよ！だから・・・」

影山

「・・・いいよなあ・・・アンタは・・・どうせ、部下に裏切られたことも、上司に見捨てられたことも、大嫌いな奴に媚びたことも、雨の中地面をはいつくばったことも、約1話の中だけで片思いと失恋をしたことも、いきなりギャグキャラにされたことも、ある日突然化け物にされたことも無いんだろ・・・！」

こんな奴らに俺達闇の住人の気持ちなんて分かるはずが無いのさ・・・

その場が沈黙に包まれた・・・

すると

なのは

「友達になろうよ」

ガキがこんなことを言い出した

影山

「は？どうしてそうなるのさ？」

なのは

「なりたいから。友達に」

このガキ…本当に訳わかんないね！…どっとう神経してるのさ！？

今時、友達なるうなんてクサイこと言うやつ始めて見た！

でも……もう少しだけ、生きてみようなんて思った

？友達になる

？断る、日なたの住人が……

地獄から蘇った弟（後書き）

どうも、ファントムです！！

はい。まさかの読者参加型です

？、？のどちらかを感じに書いて送ってください！！！！

ちなみに、一票も無かった場合は作者が勝手に決めます

是非、応募してください！！

地獄の家族勧誘（前書き）

多くの投票ありがとうございました！！

投票してくださった

疫病神さん

たぬえもんさん

霞 空斗さん

キラさん

断空我さん

超人類さん

カイザーさん

紅さん

ありがとうございました！！

アンケートの結果は

？6票？2票でした！

皆様、これからもよろしく願いします！！

ちなみに、？が当選した場合は

影山が翠屋をとび出して、金髪少女の住んでいるマンションの近くで気絶する

という風にする予定でした

地獄の家族勧誘

影山

「いいさ」

なのは

「え!？」

影山

「友達になってやるって言ってるのさ…でも、お前がつるさいから仕方なくなるだけの上っ面の友達だからな!」

そこは絶対に勘違いされたくない…

第一、友達なんて裏切るためにあるようなものだろ？

なのは

「いいよ、それでも。瞬君が友達になってくれるなら」

影山

「ふん。変なガキ」

でも、俺なんかよりはマトモな人間なんだろうね…

士郎

「それじゃあ、君は家族決定だ!」

…はあ？

影山

「だからなんでそうなるのさ!？」

士郎

「娘の友達が困っているのを見過ごすわけにはいかないだろう？」

影山

「困ってないし、あくまで上っ面の付き合いだって言ったじゃないか…!」

どこまで平和ボケしてるのさ、コイツらは？

士郎

「まあ、とにかく入りなさい」

そう言いながら、オヤジが俺を抱えて店の中に連れ込む

影山

「くそつ、離せ!家族なんか要らない!抱えるな!」

士郎

「改めて、私は高町 士郎。この喫茶『翠屋』の店主だ」

桃子

「私は高町 桃子よ。大変だったのよね、瞬君…」

恭也

「俺は恭也だ。辛かったな、瞬」

美由希

「私は美由希。よろしくね、瞬君」

なのは

「私はなのはだよ。末っ子だよ！」

コイツら…なんでガキ以外全員が俺に哀れみの目を向けてくるのさ…？

このオヤジは一体どんな説明をしたのさ（怒）

俺が黙って睨んでいると、向こうから話し掛けてきた

士郎

「瞬君、得意な物はあるかい？」

影山

「媚びること」

桃子

「好きなものは？」

影山

「兄貴」

恭也

「お前には武術の心得があるのか？」

影山

「俺のは殺すの専門さ…」

美由希

「苦手な物とかある？」

影山

「アンタらみたいな日なた側の住人」

これで、コイツらも俺を家族にしようなんて思わないだろ…

なのは

「それじゃあ、よろしくね。瞬君」

なんでさ…？

影山

「だから俺は家族なんて要らないって何度も言ってるだろ！」

士郎

「うーん…君はどうしてそんなに独りになろうとするんだい？」

オヤジが俺にそんなことを訊いて来る…

本当に闇を知らない奴はむかつかくなあ…

影山

「ふんっ！いいよなあ…アンタは…俺なんて日向の道どころか、もう人間の道にすらもう戻れないんだ…」

兄貴も言ってたっけ…

『相棒…。お前『いいことした』とか思ってるんじゃないかな？俺達みたいになろくでなしが少しでも光を掴もうなんて思うと、痛いっぺ返しを食らうぞ』

俺と兄貴が夜の光を掴もうとした結果がコレだよ…

俺はもう二度と光なんか掴もうとしない…

これ以上の地獄はもうたくさんだ…

士郎

「じゃあ、お試しというのはどうだい？」

影山

「お試し？」

士郎

「そう。一度私達と一緒に暮らして、どうしても嫌だったら出て行く…ということだ」

なのは

「瞬君一緒に暮らそうよ！」

…なんでコイツらは見ず知らずの人間にここまでするのかなあ？

平和ボケにもほどがあるだろ…

俺は…

？試しにコイツらの提案に乗ることにした

？まるで闇を知らない奴らと暮らすことなんか出来ない

地獄のベルトがない！？（前書き）

アンケートにご協力してくださった

疫病神さん

山田太郎さん

紅さん

仮面ライダーディケイド神さん

断空我さん

超人類さん

カイザーさん

霞 空斗さん

ブラッキンさん

（owo）さん

ありがとうございました！！

アンケートの結果は

？6票？4票でした

ちなみに、？が選ばれた場合は変身がずいぶん先になる予定でした

これからもよろしく願います！！

地獄のベルトがない!?

影山

「気に入らないなあ…アンタら…。アンタらが絶望するところが見てみたいよ…いいさ、どうせいつかは俺を見捨てるんだ…アンタらの提案に乗ってやるよ…」

どうせ、コイツらもZECTみたいに俺を簡単に捨てるんだ…

士郎

「よし!じゃあ、瞬君は今から高町家の家族だ!」

(仮)をつけるオヤジ…

美由希

「ところで、瞬君って何歳なの?」

影山

「20」

美由希

「……………」

せつかく正直に答えてやったのに黙った。俺だってこんなガキみたいな姿は嫌なのにさ…

恭也

「そつだ。後で俺と訓練をしてみないか?」

影山

「断る」

何でそんな無駄なことに俺が付き合ってやらなきゃいけないのさ…

士郎

「でも、本当のところ、君は何か武術の心得があるんだろう？」

影山

「別に…。ちょっとボクシングをやっただけさ」

俺は返してもらった服に着替えながら適当に質問を受け流す。

恭也とかいう奴が俺の服を見て怪訝そうな顔をしたけど、俺はこの服以外に着るつもりはないのさ

「へえ〜。瞬君すごいの！」

ガキが感心したように言う。

でも、俺はそれに反応している暇は無かった…

ない…！兄貴がくれたZECTバツクルが返された服の中にないことに気づいた

影山

「おい！俺のベルトをどこにやったのさ！？」

士郎

「ベルト？君が着ていた服はそれで全部のはずなんだが…」

影山

「そんなはずあるか！！あのベルトはマスクドライダーシステムの
一環なんだぞ！もしかして…」

コイツらワームなんじゃないのか？

恭也

「落ち着け！そもそも、マスクドライダーシステムって何だ！？」

はあ？コイツら…平和ボケしてると思ってたけど、今時ZECTの
ことも知らないのか？

影山

「ワームを倒すために作られたマスクドライダーシステムだ…！こ
こまで言えば分かるだろ…！？」

だんだんイライラしてきた…！俺や兄貴が命がけで戦っている中、
コイツらはライダーのことも知らずにのうのうと生きてたんだ…！

士郎

「…そのマスクドライダーは聞いたことがないが、もしかしたら君
がいたゴミ捨て場にあるかもしれないな…あ！待つんだ瞬君！」

聞き終わると同時に、俺はゴミ捨て場に走っていた…場所は分から
ないけど、アレを絶対になくすわけにはいかないのさ…！

影山

「あつた！俺のベルト！」

あれからずっと走り続けて、河の上にある大きな橋でやっと俺のベルトを見つけた。でも、すでにゴミ収集のトラックの荷台に積まれていた

影山

「まだそんなにスピードは出てない…」

俺は収集車の荷台にあるベルトをとろうとしたけど、ゴミの一番上に積まれていたのと体が小さいせいで、うまく取れなかった

仕方なく運転手に事情を説明しようとした時…

「がたっ！」

トラックが大きく揺れて、一番上に積まれていたベルトが転がって橋の下に落ちた…

影山

「俺のベルト！」

俺も後を追って橋から飛び降りようとした時…

でも

???

「うわあああー!!」

誰かに思いっきり腕を掴まれた。そのせいで飛び降りることが出来なかった

???

「じ、自殺なんてしちゃ駄目！」

そんなわけの分らないことを言うのは…

? 金髪の変なガキだった

? 薄茶色の髪のカキと紫の髪のカキだった

地獄の少しだけ通じた思い（前書き）

アンケートにご協力してくださった

疫病神さん

仮面ライダーディケイドさん

紅さん

霞 空斗さん

超人類さん

断空我さん

ブラッキンさん

いつもありがとうございます！！

アンケートの結果は

？5票？2票

でした！

これからもよろしく願いします！！

地獄の少しだけ通じた思い

???

「自殺なんてバカなことをしたら駄目だ！」

…え？

自殺？確かにそれかもしれないと思ってたけどさ…

って、それどころじゃない！早く見つけなきゃ！

影山

「いいから離せよ！俺はベルトを取りに行かなくちゃいけないんだ
！」

???

「そんなことをしたら悲しむ人が…って…ベルト？」

事情説明中

???

「そうか…大切な人からもらった…ごめん、勘違いして…。」

???

「もしよければ、私も探すの手伝おうか？」

影山

「それは…助かるけどさ…何で見ず知らずの人間の手伝いをするのさ？」

この町の人間にはお人好しになる呪いでもかかっているのか？

???

「…分からない…でも、なんとなく君と私は似ている気がするんだ」

似てる？このガキと俺が？

…このガキも暗闇の世界を見たことがあるのか？

よく見たら、コイツ…瞳の奥に闇が見える……友達（仮）よりかは気が合いそうだね…

影山

「俺は影山…アンタは？」

???

「フェイト。フェイト・テストロッサ」

フェイト…コイツは覚えておこつ。

フェイト

「暗くなる前に見つけよう。特長とかある？」

影山

「ZECTのマークが描かれているベルトさ」

フェイト

「ゼクト？」

フェイトもZECTを知らない…！？

本当にどうなってるのさ？

影山

「とにかく、あれは兄貴からもらった兄弟の証なんだ…！絶対に見つける！」

俺は橋から河へと飛び降りる。フェイトが何か叫んでたけど、関係ない…

少したってから、フェイトが橋から掛かっている階段を使って降りてきて、探すのを手伝ってくれた…

フェイト

「こつちには見当たらない…もしかしたら、流されたのかも…」

影山

「そんなに軽いものじゃない…！多分、この辺に…」

服が濡れる。時々、足を滑らせて転ぶ

でも、そんなことは気にしていられない…

『俺の弟になれ』

あの一言にどれほど救われたか

あの一言でどれほどの絆が出来たか

俺以外の誰にも分かるわけがない…

影山

「あつた！」

河の中の岩と岩の間に挟まっていた

フェイト

「それが、君の探していたベルト？」

影山

「ああ。誰にも相手にされなかった俺に、兄貴がくれた…」

兄貴…今はどうしてるんだろう？

兄貴は白夜の光を掴めたのかな？

ゴールのない暗闇から抜け出せたのかな？

なんで俺ばかりがこんな目に…

思い出すのはあの出来事…

『よう、天道。いい事教えてやるよ。俺たちはこれから光を求めて旅に出るんだ』

『そうか…だが、その前にそのネックレスをはずしていけ』

『なんだ？お前もコレがほしいのか？…でもやらないよ』

そして、あのネックレスに触れたとたんに俺の全てが壊れた

俺はワームになってしまったんだ

『嘘だ…！嘘だろっ！…！…うわあああああああああああ！
！！！！！！！！！！』

ゾクッ

思い出したら震えがとまらない…

生きる希望を全て持っていられる…

今までの俺の全てが否定された気分なる…

フェイト

「君、大丈夫？」

影山

「あ、ああ 何でもないさ…」

大丈夫なわけがない…

俺はベルトをつけると、フェイトにお礼をして、ほとんど逃げようにその場を立ち去った

影山

「何で戻ってきたんだろうね？」

俺は無意識のうちに、翠屋に戻ってきていた…

誰も待っているわけがないじゃないか…

誰かに慰めてもらいたくでもなかったのか？

バカバカしい…

俺が翠屋に背を向けて、出て行こうとした時…

なのは

「瞬くーん!!」

何故か店の中からではなく、外からガキの声が聞こえた…

なのは

「ハア…ハア…よかったの…瞬君いなくなっちゃたのかもって…!」

息切れ起こすほど外で遊ぶのか、最近のガキは。

なのは

「ちょっと待ってね、皆に電話するから」

ガキがポケットから携帯電話を取り出し、誰かに電話をかけていく

しばらく待っていると、高町家の奴らが全員、店の外からやってきた

影山

「なにやってんのさ、アンタら?」

士郎

「君を探していたに決まっているだろう!急に出て行くからどれだけ心配したか!」

心配…?

そんな言葉は俺には似合わないよ…？

なんだかんだ奇麗事を言っておいて最後には俺を見捨てるつもりなんだろ？

だいたい、俺が出て行ってから何時間たったと思っているのさ？

その間、ずっと俺を探していたって言うの？

なのは

「あつ！瞬君、ベルト見つかったんだね、良かった」

そんなわけないだろ…本当はどうでもいいんだろ…？

なのは

「にゃわ！どうして瞬君泣いてるの！？」

そんなこと俺に聞くなよ…！

自分でも分かんないんだよ…！！

？兄貴、俺はコイツらと生きてもいいのかな？

？どうせ、嘘に決まってる

地獄の図書館へ行こう（前書き）

アンケートにご協力してくださった

キラさん

疫病神さん

断空我さん

超人類さん

霞 空斗さん

ブラッキンさん

ライトさん

本当にありがとうございました！！

アンケートの結果は

？6票？1票でした

これからもよろしく願いします！

地獄の図書館へ行く

SIDE

なのは

皆さん、こんにちは

高町なのはです！

突然ですが、瞬君は無事に高町家の一員になってくれました！

はじめて瞬君を見た時は変わったカッコをしてるなあ、くらいにしか思ってませんでしたけど

お兄さんの話をした時の瞬君の辛そうな顔を見て、なんだか胸が締め付けられるような感じになりました…

瞬君は自分のことを全然話そうとしてくれないけど

『それだったらいつか自分から話してくれるまで待とう』という考えにみんな賛成してくれました

（影山が金髪少女に自殺志願者と勘違いされた頃）

それに…高町家では両親は新婚気分バリバリで、お兄ちゃんとお姉ちゃんが大の仲良しなので

愛されてる自覚はとってもありましたが、この一家では微妙に浮いていたので、私と同じくらいの歳の瞬君が来てくれてとってもうれしいんです！

なのは

SIDE OUT

何かがおかしい…

いくら平和ボケしたこの町でも、誰一人ZECTを知らないのはさすがにおかしいと思ってきたのさ…

ガキがあつちで妙な電波を飛ばしているけど、それは関係ないはずさ
それにしても…昨日は大変だった…

食事は『兄弟ラーメン・弟味噌』を食べようとしたら取り上げられるし

風呂にもう何ヶ月も入ってないと言ったら、女共は鬼のような形相をするし

いったい何がそんなに気に食わないのさ！

服も無理やり着替えさせられそうになっただけど、これだけは死守した…

……話が逸れるところだった…

とにかく！本当は眩しすぎて、近づきたくもないけど、仕方なく図書館へと行くことを決めたのさ…

影山

「じゃあ、俺は調べ物に行くから。多分、来年までには帰るかもしれないよ」

出発。

なのは

「ちよつと待つてー！ー！！！！」

うるさいガキだなあ…今度は何さ？

なのは

「瞬君を一人で行かせたら、本当に来年まで帰ってこないかもしれないの！」

影山

「それで？」

なのは

「私も一緒に行く！」

影山

「^{いら}必要ないよ…じゃあな」

第一、この家の奴らはZECTを知らないから役に立たないさ

勝手についてくるガキは放って置いて、俺は図書館へ向かう

なのは

「着いたよ、瞬君！」

影山

「見れば分かるさ……」

意外と距離はあつたけど、何とか図書館に着いた。

ガキには一人で調べたいと言い、俺は図書館の奥の方にあるパソコンの電源を入れる

周りの暇人たちが俺に奇異の目を向けてくる…

このアウトローな服装を見れば、それが普通の反応さ…

『ZECT ワーム マスクドライダーシステム』

とりあえず、このキーワードで検索を掛けてみる

『検索結果 ZECT ワーム マスクドライダーシステムに一致するウェブページは見つかりませんでした。』

影山

「！！そんなバカな！？」

さすがにありえないぞ……！！

まさか別の世界に来たわけじゃないだろうし…

俺は実は死んで、ここは地獄なのか！？

…いや、だったらあんなお人好し共がいるわけがないさ…

そうだ！このパソコンが壊れてるのさ

本…！なにかZECTに関する本は…！？

影山

「ない…何でないのさ…！」

この図書館はどれだけ蔵書ほんが少ないのさ！

むかつくなあ…！

ああ…なんでこの町はここまでワームに興味0なのさ…！

???

「あの…」

だいたい、久しぶりにTVを見たけど、どこもワームに関することを全く放送しないってどういうことさ…？

???

「ちよいと…聞こえへんのですか？」

ベルトも見つかったことだし…腹いせにこの図書館を壊しているのか？

???

「おーい！」

影山

「なにさ！？さっきからうるさいなあ！」

俺が怒声を上げると、そこには車椅子に座った今の俺と同じくらいの年のガキがいた

???

「えっ…あ、ごめん…なんか探してるんやったら手伝おうと思っ
たんやけど…」

俺が怒鳴ったせいか、涙目になる車椅子のガキ

周りが俺に奇異の目線+何か非難するような視線まで向けてくる…
泣きたいのはコツチだって言うのに…

だから日なたの住人は嫌いなさ！

闇の住人のことを何も知らずに笑う…！

……まあ、そんなことは今はどーでもいいさ

それより、一応このガキにも聞いてみるか

影山

「お前…ZECTって知ってるか？」

俺が訊くと、涙目を止めて、一瞬うれしそうな顔をする車椅子のガキ

???

「ゼクト？うん…ちょい待ってな…ゼクト…ゼクト…」

影山

「じゃあな。」

???

「ええっ！ちょ、ちょっと待って！ウチは八神はやてって言います。
君は？」

何で俺が見ず知らずのガキに名乗らなくちゃいけないのさ…？

はやて

「（あんまり見かけへん子やけど…ウチと同年くらいかな？）」

影山

「……………影山瞬」↑考えに考えて導き出した結論。

はやて

「そっかー、瞬君は歳いくつなん？」

影山

「どうせ信じないだろうけど、20さ」

はやて

「…へ？えつと…それは…」

やっぱり信じないだろうね、どうせ頭のおかしい奴とか思ってるんだろ？

はやて

「（ウチと歳近いと思ったんやけど…20歳かぁ…珍しいカッコしてるし、外国育ちなんかな？）」

影山

「じゃあ俺は忙しいから」

はやて

「あ、あの！」

影山

「…なにさ？」

はやて

「また町で会うことがあれば、声かけてええかな…？」

影山

「…好きにすればいいさ」

言いながら俺は出口の方に歩いていく…

なにか忘れてるような…

なのは

「瞬く――ん――置いていかないで――!!」

あ、コレだ…

なのは

「まったく…瞬君ひどいの!」

影山

「じゃあ付いて来なかったらよかったじゃないか…」

なのは

「うつゝ、そういう事を言ってるんじゃないのに…」

じゃあ他にどんなことがあるのさ?

なのは

「そういえば…!私、明日から学校なんだけどね、瞬君も来るよね、私立聖祥大附属小学校?」

影山

「行かない」

なんでこの歳で小学校に行かなくちゃいけないのさ…

そんなことより…やっぱりここは何かがおかしい…

まさかとは思っけど…

?ここはワームがない別の世界…?

？ワームの情報をもっとしっかり集めないとダメなほど平和ボケした町

地獄の図書館へ行こう（後書き）

次回、遂に影山が変身…！！

地獄の拳と悲しみのラーメン（前書き）

アンケートにご協力くださった

ラハールさん

疫病神さん

霞 空斗さん

断空我さん

紅さん

超人類さん

仮面ライダーディケイドさん

ブラッキンさん

漆黒のナイトさん

たぬえもんさん

夢を追う男さん

K I N G さん

ダミーさん

多くのアンケートありがとうございました！！

？6票？7票でした！

これからよろしく願いします！！

地獄の拳と悲しみのラーメン

ここは本当に平和ボケした町…

そう思った…

いや、思おうとしていた……

S I D E

なのは

…夢

いつもは見ている時は夢だとは思わないのに、今、私は夢を見ていることがはつきり分かります…

私は今、ある場所にいます

そこは雨が降っているだけの普通の場所…

そこには二人の男の人がいます

あれは…？

？？？

『お前はいいよなあ…。影山…』

…え！？

私は話し掛けられたもう一人の男の人を見ます

そこにいたのは…

…瞬…君…？

どこか瞬君に似てるけど、あの男の人はどう見ても瞬君より年上です

もしかして…瞬君のお兄さん？

影山？

『矢車！！』

瞬君のお兄さんらしき人が、もう一人の男の人の名前を呼びます

あの人は矢車さんって言っんだ…

矢車

『俺が見た地獄はこんなもんじゃない…』

影山？

『うるさい！お前のせいで俺はザビーの座を…！！』

ザビー…？

なんだろうソレ…？

矢車

『地べたを這いずり回ってこそ見える光があるんだ…』

影山？

『光…？』

矢車

『だが期待するな！…どうせ俺達には一生見ることはできない…。
フハハハハ！』

・・・・・・・・・・・・・・・・

なのは

SIDE OUT

影山

「……い……おい！起きろって言ってるだろっ！！」

クソッ！！このクソガキなかなか起きない……！

せっかく、今日は兄貴の夢を見て気分が良かったっていつのにさ……！

なのは

「ん……ふわ……瞬君？……なんか変な夢見ちゃって……」

影山

「知るかつ！いいから早く起きろ、じゃないと俺のラーメンが帰ってこないんだよ……！」

そっ……以前取り上げられた『兄弟ラーメン・弟味噌』

今日こそ返してもらおうと思ったら……

朝からそんなもの食べたら体に悪い……とか、よく意味の分からない理由で拒否された……

必死に取り返そうとしたら、家の手伝いをしたら返す……という取引が成立したので

しかたなあ……く、このガキを起こしに来たのさ

まだ寝ぼけているガキの襟首を掴んで無理やり下の階に連れて行く

影山

「…起こしてきたぞっ！！さあ、返せよ俺の味噌！」

士郎

「ご苦労様。じゃあ、次は道場にいる恭也と美由希を連れてきてくれ」

影山

「なっ…！！…覚えてろよ、クソジジイ…！！」

俺は道場に向かって足を進める

もう少し待ってくれとか、ふざけた事を言い出したので、恭也には少し眠ってもらうことになった…

そういえば、言い忘れてたけど、このサイズになっても俺の力は弱くなっていなかった…

それどころか、元とは比べ物にならないほど力が沸いて出た

多分…怪物^{ワーム}になったせいだと思うけど…

…思い出すのはやめておくさ…

思い出す度に死にたくなる……

食事の時間

俺の飯なんてアメザリ（アメリカザリガニ）で充分なのに…

コイツ等の飯はまぶしすぎる…

飯が終わると、オヤジ達は店の準備

他3人は学校に出かけて行った…

今のうちに、この町…いや、世界にはワームがいるのかをハッキリさせるか…

正直、ワームがいなくても、ZECTがなくても、どーでもいいさ…

…でも、それは兄貴もいないことになる…

それは耐えられない…

きつと…兄貴は白夜の光を掴むために旅に出ているはずさ

…この世界のどこかで…！

まず、そもそも…

S
I
D
E

なのは

アリサ

「新しい家族！？」

私の親友のアリサちゃんが私に顔を近づけて目を見開きます

ちょっと近いかも…

なのは

「うん！ちょっと無愛想だけど、本当は優しい子だよ！」

すずか

「へえ、どんな人なのか見てみたいな」

なのは

「きつとアリサちゃんもすずかちゃんもすぐに仲良しになれるよ」

アリサ

「見に行くわよ！今日帰ったら…いや、学校から直でなのは家に
行つて…！」

アリサちゃんは息を荒くしながら、少し怒ったような声で言います…

すずか

「でも…アリサちゃん、今日塾じゃなかったっけ？」

アリサ

「そんなもんパス！！親友の家に妙なのが来たのに、塾なんか行つ
てられないわ…！」

…え？もしかして、なのはとすずかちゃんも巻き添え？

学校が終わると

アリサちゃんは近道の森を通って、私の家に爆進して行きます

私とすずかちゃんも一緒です…

塾…大丈夫かな？

そんな心配をしながら歩いていると…

『助けて』

…え？

なのは

「ねえ…今何か聞こえなかった？」

すずか

「なにか？」

なのは

「なんか…声みたいなの」

アリサ

「別に…」

すずか

「聞こえなかった…かな？」

『助けて!』

!!今度は確かに聞こえた!

私は自分でも気づかないうちに声のする方に走っていました

しばらく走ると、そこには…

赤い宝石のようなものを付けたケガをしたフレットさんがいました…

アリサ

「どうしたのよ、なのは!?!急に走って」

すずか

「!見て、この子…ケガしてる…!」

なのは

「ど、どうすればいいのかな?」

アリサ

「と、とりあえず病院!」

その後、フェレットさんは近くの動物病院に連れて行って、なんと
が無事でした…

なのは

SIDE OUT

……だから、つまり、きっと兄貴はいる！

考え出していたら、いつの間にか何時間もたってたし、とりあえず
ここらへんで区切る

腹も減ったし…

さっき返してもらった『兄弟ラーメン・弟味噌』でも食べるとするさ

このラーメン…いつもは兄貴と一緒に食べてたな……

『熱湯？分、彩り鮮やか！具材たっぷり！』

…お湯を入れて、4分待つ

この時間が結構楽しかったりするのさ

あと1分（ワクワク）

「影山瞬はどこ!」

バン!

ボトツ!

……アンタ等には今の効果音が何か分かるか?

突然やってきたガキがあまりにも強くドアを開いたせいで……

俺の味噌があ……!

律儀に4分待ったのに……!!

影山だった破壊神

「……コウス!ゼンプ、ブッコワシテヤル……!!」

アリサ

「……え……つと、なのは?コレがアンタの言ってた無愛想だけど、優しい奴……?」

なのは

「……の、はずなんだけど……」

すずか

「アリサちゃん!早く謝った方がいいよ!」

影山と名乗っていた悪魔

「ウオオオオオオオオオ!……!」

そこから先は覚えてないけど…

目が覚めたら態度のでかかったガキが妙におとなしくなっていた

なのは

「じゃあ、バイバイ！二人とも」

アリサ

「まあ…瞬も確かに悪い奴ではなさそうね（かなり変わってるけど…）別に怖かったわけじゃないのよ！」

すずか

「じゃあ、またね。なのはちゃん、瞬君」

何さりげなく名前で呼んでるのさ、ガキ？とガキ？

というか、そもそもコイツ等は誰なのさ？

夕食時

なのは

「と、いうわけで、そのフェレットさんをしばらくウチで預かるわけにはいかないかなって?」

このガキはまた…

さすがにお人良し家族でもここまで何でも拾うわけじゃないか

士郎

「ふむ、フェレットか…」

ほら、このオヤジですら悩んでる

士郎

「ところで何だ、フェレットって?」

知らなかっただけかよ!

影山

「フェレットてのはイタチの仲間さ…焼くと意外に食えるんだよ…」

一同

「(。口。)」

なにさ? 俺何も変なことば言っていないぞ…

士郎

「そうか…フェレットというのは食用のペットだったのか…!」

恭也

「違うから!」

影山

「で?その珍獣は結局どうするのさ?」

桃子

「フェレットって小っちゃいよねえ?だったらかごに入れて、なのはがちゃんとお世話するならいいんじゃない?」

恭也

「俺も依存はないぞ」

美由希

「私も」

なのは

「瞬君は...?」

影山

「どうして俺に聞くのさ?」

なのは

「だって、瞬君も家族だもん」

「...また、こんな臭いセリフをよく恥ずかしげもなく言えるねえ」

「まったく、くだらないよ...」

影山

「どーでもいい」

ほんと、くだらないよ……………

晩飯が終わり、俺は今、屋根の上にいる

夜空を見てると、あの日を思い出す…

『さよならだ…兄貴』

俺は兄貴にああ言った…でも

『ただいま、兄貴!』

いつかそう言えるといいんだけどね…

…ん？

あれは…ガキ？

ふと、下を見てみると、もう寝ているはずのガキがどこかへ走って

いった…

なにか慌ててみたいだけ…

『友達になろうよ』

『だって、瞬君も家族だもん』

……一応、付いて行くかな

影山

「やめとけばよかった…」

なんだ、アレ？

ガキにこっそり付いて行ったら、なんかやばそうなのがいるよ…

真っ黒な出来損ないのマリモみたいなのが…

フェレットを抱えてるけど、アレがガキの言っていたやつか？

この町に来てから何回言ったか分からないけど…

影山

「どうなってるのさ…?」

黒マリモがガキを襲おうとする

助けた方がいいよね…さすがに…

俺はゼクトバツクルのバツクル部を展開させる…

影山

「来い！ホッパーゼクター！」

俺が命令すると、どこからかホッパーゼクターが跳躍移動して、コ
ツチに来る…

実は、この変な町に来てから、一度もゼクターを使わなかったから、
ちゃんと来るか不安だった…

影山

「変身！」

いつもは兄貴と一緒に使っていた言葉…

一人で言うത്、少しこみあげた…

H E N S H I N

C h a n g e P u n c h H o p p e r

?ガキを助けることを優先する

？マリモを倒すことを優先する

地獄のイライラと覚醒の少女（前書き）

アンケートにご協力してくださった

ダミーさん

仮面ライダーディケイドさん

疫病神さん

超人類さん

霞 空斗さん

紅さん

たぬえもんさん

KINGさん

夢を追う男さん

漆黒のナイトさん

ラハールさん

断空我さん

カイザーさん

キーさん

ブラッキンさん

超OKAMAさん

たくさんの応募ありがとうございました！！

結果は

？9票？7票でした！

地獄のイライラと覚醒の少女

「変身！」

H E N S H I N

ホッパーゼクターからエコーのかかった音声が流れる

それは、俺にとって、呪いの言葉で、兄弟の証拠でもある言葉だ…

体が茶色の鎧に包まれていく…

右腕側面には兄貴キックホッパーのものと同じアンカージャッキが装備されて

バッタをイメージしたマスクに顔が覆われる

C h a n g e P u n c h H o p p e r

…あれ？

身長が大人のサイズに戻ってる…！？

パンチホッパー

P H

「どついうことだ…？」

声も子供のものから大人のものになってるし…

って、考えてる余裕無かった！

パンチホッパー

PH

「さてと…」

パンチホッパーになった俺は、あのマリモモドキに向かってダッシュして…

パンチホッパー

PH

「セヤッ！」

強烈な一撃を入れて、マリモを吹っ飛ばす

パンチホッパー

PH

「おい、無事か？」

なのは

「ふえ！？ふええええええ！！ねえ、本当にどうなってるの！？」

俺の姿を見たガキが、抱いていたフェレットに向かって叫ぶ…

あゝあ。遂にイカレたのかなあ？

フェレット

「ぼ、僕にも何がなんだか…アナタは一体…？」

……は？

パンチホッパー

PH

「おい…何でフェレットが喋ってるのさ…？」

どこまで動物奇想天外なのさ…！？

フェレット

「お願いです！助けてください！せめて、この子だけでも！」

質問に答えるよ

マリモ

「■■■■！！！」

さっき吹っ飛ばしたマリモが奇声を上げながら突進してくる

ふん…気に入らないなあ…！

なのは

「きゃあ！」

ガキが迫ってくるマリモをみてビビッている…

ワームよりかは数段ましな見た目をしてるから俺としてはあんま怖くない…

避けてもいいけど、それじゃこのガキ死ぬよな…

パンチホッパー

PH

「ちっ、セヤッ！」

片手でマリモの突進を受け止めて、そのままカウンターで一撃を入れる

マリモ

「■■■■!!」

それにしても…図体の割に簡単に吹っ飛ばなあ…

マリモが体勢を立て直して、またコツチに突進をする準備をする

まったく…俺に敵うわけないのに…

そろそろ決めるか…

俺はホッパーゼクターの脚部を折り曲げる

パンチホッパー
PH

「ライダージャンプ…」

RIDER JUMP

ピコーン・ピコーン・ピコーン

足にタキオン粒子を脚に集中させ、ジャンプの準備をする

そして、準備が終わると、いっきに上空へジャンプする…!

そのままゼクターレバーを元の位置に戻す

パンチホッパー
PH

「ライダーパンチ!」

RIDER PUNCH

今度は右手にタキオン粒子を集中させ

パンチホッパーの最強の技『ライダーパンチ』を打ち出す

マリモ

「■■■■■■■■！！」

突進をしていたマリモに直撃し、マリモは粉々に砕け散る

砕けたかけらが電柱とか壊したけど…ま、いつか

パンチホッパー

PH

「ハハハハ！！ザマアないねえ！」

なのは

「あ、あの……」

パンチホッパー

PH

「ん？まだいたのか」

なのは

「あれ……」

ガキが粉々になったマリモのかけらを指差すと、マリモがどんどん再生していった…

パンチホッパー

PH

「…どうなってるのさ？」

フェレット

「アレはただ力で倒すだけじゃダメなんです。アレは忌まわしい力

『ジュエルシード』を元に生み出されてしまった思念体…アレを止めるには、コレで封印するしかないんです!」

フェレットがぎゃあぎゃあ言いながら、小っこい宝石を取り出す…

フェレット

「なのはさん…でいいんですよ?あなたには素質がある…お礼は必ずしますから、僕に力を貸してください!魔法の力を!」

さつきから流暢な日本語を使ったり、魔法がどうか…

意味わかんないね…この町に着てからろくな事が起きない…もうどうにでもなるがいいさ…

なのは

「お礼がどうか言ってる場合じゃないでしょ!よくわかんないけど…どうすればいいの!?!」

ガキもよく引き受けるね〜

俺だったら絶対にムリだね

ところで、帰っていいかな?

フェレット

「コレを!コレを手に、目を閉じて、心を澄ませて…そして、僕の話とおりに繰り返して…」

「我、使命を受けし者なり」

「我……使命を受けし者なり……」

「契約の元、その力を解き放て」

「えと……契約の元、その力を解き放て」

「風は空に、星は天に」

「風は空に、星は天に」

「そして、不屈の心は…」

「そして、不屈の心は…」

「この胸に！」

「この手に魔法を！」

「レイジングハート、セットアップ！」

終わった？俺さっきから再生したマリモと殴り合ってるんだけど…

そんなことを考えていると、辺りが眩しい光に包まれる

一瞬後には…ガキがはずかしいコスプレをしていた…

フェレット

「成功だ…！」

「眩しいんだよ…！」

なのは

「ふえ！？ふえ！？嘘！？何なのコレ！？」

パンチホッパー

PH

「いいから、封印するならさっさとやれ！殴り倒すぞクソガキ！！」

同作者が書いてるSSの主人公の不幸が伝染して、コッチはイライラしてんだよ…！

驚いてる暇があったらさっさと終わらせろ！

なのは

「アナタは味方じゃないんですか！？」

パンチホッパー

PH

「いつ、誰が、そんなことを言ったのさ？俺は兄貴だけの味方だ！」

なのは

「えっ…！（兄貴…！…って瞬君のわけないか…）」

なのは

「と、とにかくジュエルシード、封印！」

Sealing Mode・Setup

マリモ

「■■■■■■■■■■！！」

マリモの動きが帯のようなものに封じられる…

Stand by Ready

なのは

「リリカルマジカル、ジュエルシード『シリアルXX?』封印!」

Sealing

マリモの額にXX?の文字が現れ、次の瞬間、小さい青い宝石に変わる…

影山

「ふん…」

俺は変身を解除して、まだなんかゴチャゴチャ言ってる奴等を放つて行く…

もう、ここまで来たら説明とかどーでもいい…

あのガキがどうなろうと知ったことじゃないしね

しかも…変身をといたら元の姿に戻るかと思ったら…

小さいままだった…

はあ~~~~~~~~~っ…

地獄のイライラと覚醒の少女（後書き）

家に着くと、恭也と美由希がいた…

どうやらガキがなくて探してるらしい…

少し、その場で待っていると、ガキが喋るフェレットを連れて帰ってきた

俺もこれ以上関わる気は無いから何も聞かなかったけど…

まさか、次の日にガキにあんなことを訊かれるとはね…

あの時は本当にこのガキを殴りかけたよ…

？まあ… 実際殴ったんだけどね

？それでも… ガキに悪気は無かったし、なんとか堪えた

地獄の底の影山の闇（前書き）

アンケートにご協力くださった

超人類さん

ラハールさん

超OKAMAさん

たぬえもんさん

仮面ライダーディケイドさん

KINGさん

断空我さん

仮面ライダーベルデさん

多くの投票ありがとうございました！！

結果は…

？2票？5票

でした！！

地獄の底の影山の闇

SIDE

なのは

皆さん…私は今、とても不思議な状況です…

誰かに呼ばれた気がしてお外に出たら

偶然見つけたフェレットさんが喋って

なにか黒い物に襲われて

茶色いバツタさんが助けてくれて

魔法少女になりました…

…その中でも私が一番気になったのは、茶色いバツタさんのことです
ちょっとしか声が聞こえなかったし、気付いたらいなくなっていた
ので、勘違いかもしれないけど…

あの声は…

私が夢で見た、瞬君のお兄さんの声にそっくりだったんです…

でも、夢で見たあの人が瞬君のお兄さんっていう証拠はありません…

だから、瞬君に訊いてみようと思うんです

夢の中でお兄さんが言ってた…

『ザビー』のことを――

なのは

SIDE OUT

ああ…イライラする…

俺の今の状況は普通じゃない

死んだと思ったら生きてて

体が縮んでて

日なたの住人の家族にされて

その家族の一人が喋るフェレットを連れて、黒マリモと戦って…

この状況で平常心を保っていられるような、ヤバイ奴は俺の知り合
いでも一人くらいしかないさ…

まあ…そんなわけで、俺のストレスは今、爆発寸前だ…

これ以上ストレスが溜まるようなことがあつたら、俺は――

なのは

「瞬くーん！」

……つるさいのが来た……

影山

「…今度は一体何さ？猫でも拾ったのか？」

なのは

「あのね、ちょっと瞬君に聞きたいことがあるの！」

影山

「な、なんだよ…」

妙に鼻息荒いぞ、お前。

なのは
「瞬君、『ザビー』って知ってる？」

…は？

……なんだって…！？

聞き間違えたのか…！？

今、このガキは『ザビー』って言わなかったか…！？

そんなわけが無い、聞き間違えたんだ

影山

「おい…もう一回言え」

なのは

「ふえ？…瞬君って『ザビー』って何か知ってる？」

間違いない…

コイツ…！！

影山

「…それがどうかしたのか…！？」

なのは

「あのね…瞬君のお兄さんって『ザビー』だったのかなあ、って」

……！！！！

影山

「……んで……！」

なのは

「え？」

影山

「何でお前がそれを知ってる……！！！」

ザビーは俺と兄貴を地獄に落としたきつかけだ……！

俺がまだ、兄貴を『矢車さん』と呼んでいた時のもので……

アレのせいで……俺が兄貴を地獄に落としたんだ……！

何でイライラしている時に、一番思い出したくないことを思い出させる……！！

思わずガキを殴りそうになったけど、何とか堪える……

影山

「……気分が悪い……！」

俺は啞然としているガキを放置して、部屋を出る

なのは

「しゅ、瞬君！」

ガキが付いて来ようとしたけど…

影山

「来るな!!」

今はガキだからって優しい口調で話す余裕も無かった…

…はあ〜

さすがに怒鳴りすぎたか？

…冷静になって考えてみると、あれだけZECTの情報を探しても見つからないのに、あのガキが兄貴を知ってるわけが無い…

でも…俺にだって触れられたくないことぐらいあるのさ…

はあ～～～

アリサ

「…瞬？」

影山

「…誰？」

アリサ

「アリサよ！ア・リ・サ！前に会ったでしょ！」

…あ

影山

「俺のラーメンを台無しにしたガキ？か」

アリサ

「なっ…！そりゃ悪かったけど…いつまで根に持ってるのよ…」

影山

「あのラーメンは俺だ…。俺も粉々に壊れてしまった…」

こないかにも金持ちそうなガキに、あれの価値が分かるわけ無い

さ…

アリサ

「そんなことより！アンタ、なのはに何したのよ！なのはったら今日一日中、ずう~~~~と」

『瞬君を怒らせちゃった…私が瞬君の気持ちを考えずに、瞬君を傷つけたんだ…』って

半泣きになりながら落ち込んだのよ！」

影山

「へ〜」

正直、あのガキが落ち込んだとかはどーでもいい

重要なのは、なんであのガキがザビーを知っていたのかさ

アリサ

「そりゃ、アンタにもイロイロあったんだろうけど…ちょっとはなのはの事も気遣ってあげなさいよ…」

影山

「……いいよなあ、あのガキは…俺なんて、困ってる時に助けてくれる友達も、仲間もいなかったよ…」

アリサ

「瞬？」

『隊長でもザビーでもないお前など、ただの不協和音だ』

『オジンのクセに』

『アンタ資格者だったんだろ…！ザビーゼクター奪われたままで悔しくないのか！？』

『目障りだなあ』

『お前は天の道を外れた』

『使えんヤツだ…殺れ』

そつさ…兄貴以外で俺に味方してくれるヤツなんて…

アリサ

「瞬…！」

！！…ビツクリした…

アリサ

「アンタ大丈夫？今にも飛び降りそうって目してたわよ」

影山

「アンタには分からないさ…闇の住人のことなんて…」

アリサ

「ちよつと、瞬！待ちなさいよ！」

ガキ？がなんか言ってたけど、軽く無視する

ピョン ピョン ピョン

影山

「ホッパーゼクター…？」

ガキ？を撒いて、少し歩いたところで、ホッパーゼクターが俺のところに跳んで来た…

ゼクターが来るって事は…

影山

「まさか…ワームか！？」

だとしたら、こんなところにいる場合じゃない…！

ワームがいる事をこの目で確かめないと…！

俺はホッパーゼクターをゼクトバックルにセットする

「変身」

H E N S H I N

C h a n g e p u n c h H o p p e r

… やっぱり、大人サイズに戻ってる

パンチホッパー

P H

「さて… どちらに行けばいいんだ？」

俺はホッパーゼクターに道案内を頼み、急いで反応の方に向かう

パンチホッパー

P H

「… なんでさ？」

思わずそう言ってしまう…

だって、たどり着いた場所にいたのは…

黒い四つ目のデカイ犬と、喋るフェレットをつれたガキだった…

パンチホッパ―

P H

「おい」

なのは

「！！あ、アナタは…！」

ガキが俺に気付いて目を丸くする

パンチホッパ―

P H

「あれは何さ…？」

なのは

「えつと…原生生物を取り込んだジュエルシードでいいのかな？」

ユーノ

「うん。実態があるぶん、昨日より強くなってる…なのは！レイジングハートの起動を！」

なのは

「ふえ！？起動ってなんだっけ？」

パンチホッパ―

P H

「確か…」

我、死命を受けし者なり

我、使命を受けし者なり

契約が切れて、権力なくして
契約の元、その力を解き放て

風に打たれて、寒い
風は空に、星は天に

そして、拳句の果て…
そして、不屈の心は…

このザマ！
この胸に！

この手に権力を！
この手に魔法を！

…じゃなかったか？

ユーノ

「違いますよっ！！」

なにさ… 大体あつてるじゃないか…

ジュエルシード

「グオオオオオオ！！！！」

あ、犬来た…

パンチホッパー
PH

「ちっ！俺がアレ止めてる間に起動しろ！」

ジュエルシード

「ゴオオオオオオオオ！！！！」

パンチホッパー

P
H

「クハハッ！痛い目にあいたいようだねえ？」

？ 跡形も無く、粉々にする

？ 原生生物を取り込んでるし、手加減する

地獄の『命』（前書き）

アンケートにご協力してくださった

疫病神さん

仮面ライダーディケイドさん

超人類さん

たぬえもんさん

断空我さん

霞 空斗さん

ラハールさん

夢を追う男さん

超OKAMAさん

紅さん

カイザーさん

マカロニさん

KINGさん

漆黒のナイトさん

ブラッキンさん

矢部野 和麻呂さん

ありがとうございます！！

結果は…

？13票？3票でした！

地獄の『命』

さーで、ストレスも溜まってるしコイツで発散しようか…

パンチホッパー

PH

「フンッ！セヤッ！」

犬獣

「グオオオオオオオ！！！」

俺の戦い方は極めて簡単…

ただ殴るだけさ…

相手が倒れようが、命乞いしようが、ただ力任せに殴り続ける

犬獣

「ゴ…アア…ア」

ほーら。この犬も何十発も殴っているうちにもうそろそろ死にそうだ

パンチホッパー

PH

「ほら、立てよ」

倒れた犬の首根っこを掴んで無理やり立ち上がらせ、アッパーで昏倒させる

犬獣

「ア…アアア…アアアアア！！！」

犬が最後の力を振り絞って鳥居にジャンプする

パンチホッパー

PH

「お前に負ける俺じゃない…！」

ゼクターレバーを折り曲げて、ジャンプの準備をする…

パンチホッパー

PH

「ライダージャンプ…！」

RIDER JUMP

犬との距離を一気に縮めて、タキオン粒子を足から右腕に流し込む

パンチホッパー

PH

「ライダーパンチ…！」

RIDER PUNCH

犬獣

「………！」

アンカージャッキを作動させて、犬を文字通り跡形も無く粉々に粉砕する…

着地して、右手を見るとあの青い宝石を握っていた

つまり……

パンチホッパー

P H

「あゝあ、中の犬も死んだかなあ？」

まあ、死んだなら死んだで別に良いさ

なのは

「…ひどい…！」

パンチホッパー

P H

「はあ？」

なのは

「何でこんな事をするんですか！ジュエルシードを封印すれば殺す事なんて無かったじゃないですか！！」

ガキが目には涙を浮かべて俺に詰め寄る…

むしろ、何で殺さないのさ？

パンチホッパー

P H

「そもそもお前が起動方法を忘れたのが原因じゃないか。そう、仕方なかったのさ」

思わず仮面の下から笑いがこみ上げてくる

殺す事を非難するやつなんて久しぶりに見たからか？

なのは

「…！！…そんな…あなたは命をなんだと思ってるんですか！」

パンチホッパー

P H

「じゃあ、逆に聞くけど。お前が今まで食べてきた牛の命はなんだったのさ？鳥の命は？豚の命は？」

なのは

「っ！…それは……」

ガキが言い淀む

所詮は薄っぺらい正義感なんてそんなもんさ…

パンチホッパー

P H

「第一、人の心を土足で踏みにじったお前が言えることじゃないだろ？」

今の一言でガキは完全に心が折れたのか、その場に座り込む

悪く思わないでくれよ。お前みたいなのはいずれ俺みたいな事になるタイプだからね…

今のうちに汚い事と向き合ったほうが良いのさ

宝石をガキの近くで俺を睨んでいたフェレットに投げて、その場を立ち去る

影山

「で、何の用さ？」

そんな事があつてから数時間後

ガキが突然俺の部屋にやってきた

なのは

「瞬君：ごめんなさい！」

…へ？

影山

「謝られる理由が分からないね」

なのは

「今日、瞬君のことを怒らせちゃったから…」

ガキのツインテールがへなへなとしおれる

それ感情とリンクしてるのか？

影山

「別にそれは良いけどさ…何でまたこのタイミングで言うのさ？」

謝るだけなら、メシの時でも言えるのに

なのは

「出来るだけ早く謝りたかったの……ねえ、瞬君。瞬君は命ってなんだと思う？」

…なるほど。要は俺の^{ホッパー}ことが気に食わないけど、自分が謝ってからじゃないとあいつを非難する権利は無い……とでも思ったんだろうね

クソ律儀なこのガキらしいといえば、らしいね

影山

「命なんていつどうなるか分かった物じゃないね…」

エリートから負け犬になって、負け犬から化け物になった俺がいい例さ…

なのは

「うん…そうだね」

ガキはとぼとぼと俺の部屋を出て行く

あのガキがここまでショックを受けるとはね…

これはこれで何かイライラする

影山

「おい」

なのは

「え？」

影山

「誰かが生きてるから誰かが死ぬのさ。つまり、命つてのは凶器にも救いの手にもなる…つまり答えなんて無いのさ」

なのは

「……………そっか…！そういうことなんだね！ありがとう、瞬君！！」

ガキのツインテールも復活して、ガキが少し元気になる

晩飯の時にはもういつものガキだった…

ふん…手間のかかるガキ…

SIDE

なのは

ユーノ

「なのは…大丈夫？」

なのは

「うん…ありがとう、ユーノ君」

ユーノ君が心配して、私に声をかけてくれます…

助けてくれたと思っていた人が…

瞬君のお兄さんかもしれない人が簡単に命を奪ったことがショックでした…

でも、あの人の言うとおりだ…

私は瞬君のことを傷付けておきながら、自分のことを棚にあげていました…

もう何が正しいのかなんて分かんないよ…

『命』ってなんなんだろう…

影山

「命なんていつどうなるか分かった物じゃないね…」

瞬君に謝った時に瞬君がそういました

瞬君はあの人みたいな事を言わなくて良かった…と思ってしまった

自分が少し嫌になりました…

でも…

影山

「誰かが生きてるから誰かが死ぬのさ。つまり、命つてのは凶器にも救いの手にもなる…つまり答えなんて無いのさ」

答えが無い…

それって…

そっか……つまり、自分が正しいと思った事をしろってことなんだね！

あの人の言葉に惑わされちゃいけないって事だよ

なのははあの人に今度この言葉を言つと誓います！

瞬君はやっぱり…無愛想なところがあるけど…

とっても優しいんです！

？私…瞬君のことが…好きなんですか？

？本当に瞬君はいい人です！

地獄の『命』（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「なにさ、これは？」

ファ「これは他の作者様の主人公とお前がお話するために作られた部屋だ」

影山「は？何を意味の分からない事を…」

ファ「それでは、登場していただきましょう…」

仮面ライダーディケイドさんの『息抜き雑談！』から大介さんです！！」

大介「おい、これはなんだ！」

影山「いきなり出てきて叫ぶなよ…うるさいなあ」

大介「なんだよ…僕だって被害者だぞ」

ファ「はいはい。喧嘩はそこまで…」

影山「邪」

大介「魔」

ファ「ほげえ！……………（何が起きたかは想像にお任せします）」

影山「少しは出来るみたいだね…」

大介「お前も…ステキそうな服着てるだけはあるね」

影山「じゃあ、俺は帰るけど、また暇だったら今度はそっちの地獄に逝かせてもらうよ…」

大介「ああ。じゃあな」

影山帰宅

ファ「この思いつきコーナーに主人公」オリ主じゃ無くてもいい」に参加してくださる方がいればご連絡ください！」

ちなみに、参加してくださった方にはお礼として

『どんな質問にもひとつだけ答えます！』

例

影山はどうして縮んだの？

影山はどうしてこの世界に来たの？

など

では、さようなら！

地獄の門番（前書き）

アンケートにご協力してくださった

ラハールさん

仮面ライダーディケイドさん

超人類さん

KINGさん

断空我さん

疫病神さん

漆黒のナイトさん

超OKAMAさん

マカロニさん

霞 空斗さん

仮面ライダーベルデさん

ブラッキンさん

銃王 海さん

結果は…

？4票？9票でした！

地獄の門番

SIDE

なのは

こんにちは、皆さん

高町なのはです！

ジュエルシードを集め始めて数日

最近はあるバツタさんに会えません…

でも、いつまでも落ち込んでいる訳にはいきません

ところで、今日はお父さんがコーチ兼オーナーをしているサッカーチーム『翠屋JFC』

の試合の日

アリサちゃん、すずかちゃんと一緒に応援に来ています

瞬君も誘ったけど…

影山

『嫌だね。何で俺がそんなもの見に行かなくちゃ行けないのさ？』

と、言われちゃいました…

あ、試合が始まるみたいで選手の皆が並んでいます

皆気合が入っていま――

影山

「はぁ~~~~」

……え？

明らかにテンションが低い子が一人…

全身から早く帰りたいオーラが滲み出ているあの子は間違いない…

なぜか、瞬君がいつもの服装でゴールキーパーをしています…

ゴールの前で腕を組むその姿は、キーパーというより門番です

アリサ

「…あれ、瞬よね？」

すずか

「すぐく面倒くさそうにしてるけど…」

なのは

SIDEUT

――クソッ

何で俺が少年サッカーなんてガキの遊びに付き合っ
てやらなきゃいけないのさ……！

あのオヤジ……！！

士郎

『瞬君、サッカーをしよう！』

影山

『無理。』

士郎

『そんな事言わずに。ほら、楽しいぞ〜！』

影山

『あつそ』

士郎

『瞬君、サッカーを——』

……そんな洗脳まがいの事を朝からずっと続けられた
苦しみが分かるか？

気が付けばサッカーに参加されためんどくささが分かるか？

そんな事を考えていたら、相手のチームの奴がこっ
ちにドリブルで来た

影山

「……いいよなあ…アンタ等は…サッカー少年なんて夢があふれていて…かつこいいよねえ…どうせ、俺なんか…はあ…」

やる気を削ぐ呪文で相手のシュートの意欲を弱める

ボールが放たれる

片手でボールをはじく「相手チームのゴールキーパーの顔面にクリンヒット

その場にいた全員

『……………！？』

あゝ、めんどくさい…

今から帰ったらダメかな？

アリサ

「キーパー……！サッカーをなさい！サッカーを……！」

すずか

「相手チームの人…気絶してるよね…あれ」

なのは

「とういか…今完全に物理法則を無視したよね…？」

外野がなんかうるさい

ゴールキーパー
地獄の門番ってこういうもんだろ？

結局、それ以降、誰もシュートを打たなかった…

審判

「試合終了…18（内、15点は影山）対0で翠屋JFCの勝利…」

審判くうん…何でそんなにテンション低いのさあ？もっと大きな声で俺の勝利をたたえろよ

士郎

「よし！ちよつとアクシデントが起こったが、皆良くがんばった！いい出来だったぞ、練習通りだ！」

影山

「じゃ、帰る。」

士郎

「まあまあ、待ってくれ。勝ったお祝いにメシでも食おう！」

JFCメンバー

『イエーイ！！』

影山

「さっきトカゲ捕まえたからいいさ。浅倉さんと一緒に食うから」

士郎

「おお！ご近所さんと仲良くなったのか！しかし…そんな苗字の家なんてこの辺にあったっけか？」

なのは

「いいから」

すずか

「瞬君も」

アリサ

「行くのよ！」

おい、コラ。離せ、ガキ共！

しかも、店に着いたら、着いたで、なぜかガキ3人組と一緒に飯を食う事になるし…

アリサ

「…で、アンタは何食べてるのよ…？」

影山

「アメリカザリガニの炭火焼に、トカゲの丸焼き」

アリサ

「そんな薄気味の悪い物を食べないでよ…！」

うるさいなあ…お前は語尾に『！』を付けないと喋れないのか？

すずか

「せっかくなんだから、ケーキとか、シュークリームとかは…」

影山

「そんな眩しいものが食えるわけ無いじゃないか」

なのは

「ああっ！何か別のもの持ってくるからそれだけは食べないでっ！」

ガキが店の中に何か取りに行った…

翠屋JFC

『ご馳走様でした！』

ん？

アレは…

サッカーメンバーの一人がああ青い宝石を持ってる…？

ま、どうせ俺に関係ないし。いいか

2月12日、晴れ

なんかスゲー木が生えました。

なにさアレは!?

暇つぶしに町をぶらぶらしてたら何か生えてきたぞ!

ああー、もしかしてあの少年が持ってた宝石か?

じゃあ、ガキが何とかするだろ

ピョン、ピョン、ピョン、ピョン

影山

「……………なんだ？」

ピョン、ピョン、ピョン、ゲシッ！

うおっ！ホッパーゼクターが襲い掛かってきた！

ゲシッ！ゲシッ！ゲシッ！ゲシッ！

影山

「やめろ！飼い主俺だぞ！？分かったから！」

戦う前から若干ボロボロになった俺は、ホッパーゼクターをゼクト
バックルにセットする

影山

「変身」

H E N S H I N

? C h a n g e P u n c h H o p p e r

? C h a n g e K i c k H o p p e r

地獄の門番（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「またか」

ファ「参加してくれる優しい方がいるんだぞ、感謝しろ！」

ファ「それでは、登場していただきましょう…

超人類さんの『のび太のバイオハザード飛ばされた「完全者」』
から霧生^{キリユウ} 零^{ゼロ}さんです！！」

零「こうして直接会うのは初めてですね！兄貴！！」

影山「おお、零か。お互いの感想じゃちよくちよく話してるけどね…」

零「のび太やドラえもんも来たがってたけど…仕方ないよな。」

影山「のび太…アイツも俺と同じ日陰の住人なんだ…せつかくだから直接会ってみたかったけどね」

のび太「呼びました、影山さん？」

2人「「！？」」

のび太「何か作者さんがせつかくだからって」

影山「（のび太…せつかくこうして会えたんだ、零を殺るなら今だぞ）」

黒のび太「（さっすが兄貴。考える事がエグい…）」

零「なんかスゲー身の危険を感じるんだけど…」

影山「せゝの、で行くぞ？」

黒のび太「了解」

2人「「せゝの！」」

ファ「時間です。」

影山「へ？」

影山、強制送還

では、さようなら！

アンケートにご協力してくださった

地獄のもう一つのコロロ（前書き）

アンケートに協力してくださった

ラハールさん

断空我さん

超OKAMAさん

疫病神さん

ワタリさん

仮面ライダーディケイドさん

超人類さん

矢代 瞬さん

霞 空斗さん

カイザーさん

ミスターサーさん

ブラッキンさん

たぬえもんさん

銃王 海さん

キラさん

漆黒のナイトさん

門矢光さん

夢を追う男さん

マカロニさん

ありがとうございました！！

結果は…

？2票？19票でした！！

ちなみに、これからしばらくテスト期間で、更新が遅れるかもしれません…

すいません…テストは25日で終わりなので、そこからは更新速度をかなり上げます！

あと、今回短いです…

地獄のもう一つの「コロ

C h a n g e K i c k H o p p e r

キックホッパー

K H

「さて…やるしかないか…」

……うん？

何か違和感が…

…って

緑色の体

左足の側面にあるアンカージャッキ

赤い複眼

これは…！

キックホッパー

K H

「何で俺がキックホッパーになってんのさ！？」

チラッとホッパーゼクターを見ると、キックホッパーの向きにゼクターがセットされてた…

まさか…

影山

『やめろ！飼主俺だぞ！？分かったから！』

あの時…

焦ってキックホッパーの向きにセットしたのか…

キックホッパー

KH

「とりあえず一回変身を——」

ホッパーゼクター

……………ギロツ

ホッパーゼクターになんか睨まれてる！？

さつさと戦えって事が…

ええい！こうなったらヤケクソさ！！

とりあえず木が生えてる方に向かってダッシュする

キックホッパー

KH

「へえ、いい具合にめちゃくちゃになつてゐるねえ…」

むしろ、このままの方がこの平和ボケした町にはちょうど良いんじゃないか？

木が伸びて、どんどん町を破壊していく…

これを根元から吹き飛ばすにはライダーキック何発いるかなあ…

めんどくさいなあ…

なのは

「あ！アナタは！バツタさ……ん？」

あ、ガキだ。いつもの恥ずかしい衣装に、喋るフェレット付きで

なのは

「えーっと……脱皮しました？」

キックホッパー

KH

「バツタは脱皮しない…そのくらい知つとけよバカ」
キャスト・オフ

ホッパーゼクター

S a b o r y o u r s h a m e , n o w g e t l o
s t .

（恥を知れ、消え失せろ。）

……えらくホッパーゼクターの機嫌が悪いね、今日。

というか、お前喋れたんだ……

なのは

「それよりも、今日はアナタに言う事が！」

キックホッパー

KH

「なにさ…？善処はするかもしれないから早く言え」

なのは

「命って言うのは…」

キックホッパー

KH

「あつ、そういえば、アレはいいのか？」

聞くのもだるいし、話をそらす

俺が町の方を指差すと、ガキはそれを見て顔を蒼白にする

なのは

「…そんな…ひどい…」

こんな町がほんのちよつと壊れたくらいでショック受けすぎだろ…

そんな事を考えてると、木の根がコツチに伸びてきた

キックホッパー

KH

「ちっ…！ボサつとするな！」

俺は肩に蓄えられているタキオン粒子を右足に集中する…！

キックホッパー

KH

「レッグアックス！」

LEG AXE

その場でジャンプして、宙回りをする…その勢いを利用して、つま先から木の根に蹴りを入れる

バキバキッ！という不愉快な音と共に、木の根は碎け散る…

なのは

「助けて…くれた…？」

ボサっとするなっ…っていった側から…このガキは…！

キックホッパー

KH

「お前はさっさとコレをどうにかしろ…じゃないと前みたいな事になるよお？」

俺の一言にガキがビクツとなる…

前に俺が犬を殺した事思い出してるんだろ

なのは

「一瞬…いい人かと思ったけど…やっぱり、アナタは最低です…！」

キックホッパー

KH

「甘い…甘すぎるね…こんな程度で最低を語ろうなんて…まあ、今はとりあえず…」

また、目の前に木の根が迫ってくる…

今度は8本くらいか

俺はゼクターレバーを折り曲げる…あの人の事を考えながら…

キックホッパー

KH

「一緒にやろう……兄貴」

RIDER JUMP

足にタキオン粒子を集中させて、いつきにジャンプする

キックホッパー

KH

「ライダーキック!!」

そして、ゼクターレバーを元の位置に戻す

RIDER KICK

キックホッパー

KH

「はああああ!!!!!!」

まずは一本、アンカージャッキを作動させて砕く

その勢いのまま、宙返りしてもう1本、もう2本と蹴り碎いていく…

なのは

「…すごい」

何を見惚れてるのさ…コイツは今の状況を理解してるのか?

キックホッパー

KH

「さっさと封印しろって言うてるだろ！人の話をちゃんと聞いてたのか、ガキ！」

なのは

「そうだ…！ユーノ君どうすれば——」

俺が一括すると、ガキはどっかに飛んでいく…

後はあのガキがどうにかするだろ…

全ての根を砕き終わる

俺はホッパーゼクターをゼクトバックルからはずして、その場を離れる…

やっぱり、キックホッパーを使っても兄貴みたいに強くはなれない…か

あゝあ、無駄な時間をすごしたもんさ…

——デ？

っ！！

何だ今の！？

——マサカ、ソレデ終ワリジャナイヨナ？

影山

「誰だ！？」

周りを見回しても、誰もいない……！

——ダツタラツマラナイ……ソノ体ノ使イ方ヲ教エテヤル

影山

「っ！」

なんだ……！？この感覚……！

何だよ……コレ！？意識が……俺は……俺は……

……俺ハ……！

……アニ……キ………。

S I D E

なのは

なのは

「いろんな人に迷惑かけちゃったね……」

何とかジュエルシードを封印する事が出来ました……

でも…あのバツタさんがいなかったら捕まってたかもしれないし…

町はボロボロになっちゃいました…

それに、実は気付いていたんです

あの男の子がジュエルシードを持っていた事に…

瞬君の料理を運ぶ途中で見かけたのに、気のせいだって思い込んで…

私は…二度とこんな事にならないようにしたい…自分の精一杯じゃなくて、本当の全力で…

S I D E

???

私がその道を通ったのは偶然でした…

少し考えたい事があって散歩していただけでした…

でも…私は見てしまいました

変わり果てた彼を…

カゲヤマ

地獄のもう一つの「コロ」(後書き)

影山の

お話ししようよ…の部屋!!

影山「もう好きにせーや」

ファ「なんて無礼な…この小説のこの怪しいコーナーに参加してくださる方がいるんだぞ!」

ファ「それでは、登場していただきましょう…」

断空我さんの『仮面ライダーΦ's and Angel Beats!』から音無結弦さんです!!」

音無「よう、影山さん。突然だけど、俺はどうしてここに?」

影山「俺が知るわけないだろ…というか、誰だよお前?」

音無「とりあえず…俺は音無結弦で仮面ライダーファイズだ」

影山「ファイズ?そんなゼクターがあつたか?」

ファ「(おい、コレを読め)」

影山「なにさ…コレ?ええつと…」

死後の世界から『卒業』した音無結弦…しかし、彼が目覚めると、彼は砂漠にいた…謎の携帯電話と失った心臓を持って…

音無は数々の世界を渡り、全ての真実を知る事が出来るのか！？

by 作品のファンより

って何読ませるんだよっ！」

音無「今思えば…影山さんも天上学園に来てもおかしくないよな」

影山「むしろ、俺としては地獄学園とかのほうが逝って見たいけどね」

音無「あんま話せなかったけど…もう時間だな」

影山「というか結局ここはどこなのさ？何？知らないの俺だけ？」

ファ「それでは、音無さん。ありがとうございました！！」

地獄の思い出（前書き）

アンケートにご協力してくださった

ラハールさん

銃王 海さん

断空我さん

夢を追う男さん

門矢光さん

矢部野 和麻呂さん

矢代 瞬さん

霞 空斗さん

疫病神さん

超人類さん

超OKAMAさん

漆黒のナイトさん

ブラッキンさん

ワタリさん

KINGさん

ホールドベントさん

カイザーさん

ホッパーさん

ででで電王さん

仮面ライダーディケイドさん

ありがとうございました！

結果は

？7票？13票でした！

地獄の思い出

SIDE

フェイト

本当にただの偶然…

私は彼に出会った…

どこか自分に似ている気がした彼の事が少し気になって、もう一度会いたいと思っていた…

でも、こんな形の再開を望んだんじゃない…！

彼…瞬がどうして人を殴ってる…？

それも、無抵抗の人を一方的に…

あれは暴力なんてものじゃない…

この距離でも充分に殺意が伝わってくる…

間違いない…瞬はあの人を殺す気だ…！

カゲヤマ

「ヒヤハハハハ…！！」

男性

「あああ…頼む…許してくれ…！こ、殺さないでくれ…家で子供が

待ってるんだ…」

カゲヤマ

「…ソウカ…才前二八待ッテクレル人ガイルノカ…」

男性

「あ…ああ」

カゲヤマ

「ジャア、死ネ」

男性

「なっ…うあああああ！」

瞬が男の人の顔面を狙って思い切り拳を振るう

その時には考える前に体が動いていた…

フェイト

SIDE OUT

フェイト

「そこまでだ…！」

黒い服を纏った少女が、カゲヤマの振り下ろそうとしていた拳を掴む

カゲヤマ

「アア？何サ、才前？」

フェイト

「前に一度会った者だよ…今度は私の質問に答えてもらっ…何をしてるの？」

カゲヤマ

「ハツ当たり」

フェイト

「っ!!」

答えると同時に、フェイトに掴まれていた方とは逆の拳でフェイトを殴りつけようとするカゲヤマ

しかし、フェイトが気付く方が一瞬早く、カゲヤマの拳は空回りする

フェイト

「お前…誰だ!？」

カゲヤマ

「…俺ハ影山瞬ダ。一度会ッタンナラ知ッテルダロ？」

フェイト

「違う!…瞬のフリをするならもう少し気配を真似するべきだよ」

カゲヤマ

「…誤魔化シハ効カナイカ…ソウ、俺ハ影山瞬ジャナイ…俺ハ『ネイティブ』…ソレモ、最強ノナ…!」

フェイト

「ネイティブ？」

カゲヤマ

「モウ質問ハ終ワリカ？ ジャア、モウ壊シテ良イヨナ…」

フェイト

「最後にもう一つ…なんで瞬の姿をしている？」

フェイトが怒気を少し含んだ声でカゲヤマに問う

カゲヤマ

「質問ガ多イネェ…マ、今ハ気分ガイイカラ、答エテヤルケドサ
……ソレハ、俺ガコノ体ヲ奪ツタカラダヨ」

フェイト

「奪った……！それはどういう…」

カゲヤマ

「サービスタムハ終ワリダ」

フェイト

「っ！」

カゲヤマの拳がフェイトを狙い、的確に繰り出されていく

フェイトも何とか避けるが、一瞬でも気をそらせば直撃するほどに
危うかった

カゲヤマ

「……チッ！ ヤッパリコノ小サイ体ハ使イニクイナ…デも、少しず
つ馴染んできた…」

カゲヤマ

「『擬態能力の暴走』…そもそも、コイツが中途半端な状態で『ネイティブ』を拒むから、こんなチビな体に……！」

フェイト

「（何が…？いったい何が起きてるの…？）」

カゲヤマが自らの小さな体を見て、憎々しげに呟くのを見て、フェイトも少し混乱する

流石に、この状況を簡単に理解できるほどの経験を彼女はまだしていなかった…

カゲヤマ

「それはそうと、ボーっとしてていいのかなあ？」

バキッ…

フェイト

「ぐうつ…！」

あたりに鈍い音が鳴り、フェイトが苦悶の声を漏らす…

一瞬…本当に一瞬…彼女の持つデバイス『バルディッシュ』ですら反応できないほどに早く、彼はフェイトのみぞおちに拳を入れていた

カゲヤマから数歩距離をとるフェイト

(……………助けて…)

フェイト

「…！？今は……………」

(お願いだ…助けてくれ…！)

フェイト

「あいつから聞こえる…まさか…瞬？」

(誰か…)

(……………)

フェイト

「…今助けるよ…瞬」

カゲヤマ

「ふふふ…流石は最強のネイティブってところか？まさか、人間体のままで『クロックアップ』が使えるとはな…」

カゲヤマは笑っていた…純粹で無邪気な悪魔のように

小さく微笑んでいた…

フェイト

「ハアアアアアア！！！！」

カゲヤマ

「お前も俺と同じ目に遭わせてやる…！」

バキッ…

ドカッ…

ドスッ…

…あたりに人を殴る音だけが響く

カゲヤマ

「相手が影山瞬なら、もう少しマトモに戦えただろうに…いやあ、本当に残念だったなアア？」

フェイト

「（動きが…早すぎる…それにこの腕力…明らかに人間の常識を超えてる……！）」

カゲヤマ

「もうそろそろ終わりか？」

フェイト

「うっ…うっ…まだ…私は…」

カゲヤマ

「今更、何をしたって無駄なんだよ……！」

カゲヤマが拳を振り上げる

ああ……私は死ぬのか……

……ごめんなさい、母さん……役に立てなくて……

……ごめんね、アルフ……心配してくれてたのに……

……ごめん、瞬……助けてあげられなくて……

刹那にフェイトはそんな事を考えていた

ボロボロになったフェイトにトドメの一撃を入れようとするカゲヤマ……

その時

——ハラッ……

カゲヤマ

「ん？……コレは………！」

カゲヤマの懷から何かが落ちる……

それは、千切れてしまったただの写真……

白い夜が描かれた、ただの写真……

カゲヤマ

「……………あ……………ア……………アアア」

それまでフェイトに攻撃をする事しか考えていなかったカゲヤマが
写真を拾い、嗚咽を漏らす……

カゲヤマ

「馬鹿ナ……………！何故……………！今更ニナツテ 意識ヲ……………！……………アアア
アアアア！」

矢車

『ひどい熱だな……………』

影山

『どうつてことないよ……………それより、兄貴の分ももらってきたよ……………』

あの、ネックレス……………あれが俺から全てを奪ったネックレス……………

それを俺は兄貴に渡そうとしてる……………

矢車

『いらねーよ』

その言葉を聴いたとたん、俺は兄貴の足にしがみつ……………

影山

『兄貴！俺を見捨てないでくれよ…！』

矢車

『バカ言つな…見る』

兄貴は俺に何かを手渡す…あの写真…白い夜が描かれた写真…

矢車

『俺達にも掴める光がある…一緒に来い。真夜中の太陽を求めて…
白夜の世界へ…』

カゲヤマ

「ウウウ…！ウアアアアアアアあああああああ…！
！…！…！…」

フエイト

「瞬…？」

…ハア…ハア…俺は…俺は今までどうしてた！？

俺は…俺は！

ワームに心に乗っ取られたのか…？

影山

「何だよ……何なんだよコレ……!? 何がどうなってんだよオオオオオオオ……」

フ
エ
イ
ト

「瞬！？瞬なの！？」

影山

「あああ……！！何でだよ……助けてくれ……助けてくれ……誰か……！！」

嫌だ……！何で俺ばかりこんな目に……！！

俺が何をしたんだよ！？

何で俺ばかり苦しむんだよ！！

嫌だ！ 苦しいのはもうたくさんだ……！

嘘だ……！助けてくれ兄貴！！

フ
エ
イ
ト

「瞬！落ち着いて、私がここにいる！」

影山

「あああああああ！！！！！！！！！」

影山が意識をなくす？

？なのは到来

究極選択？浅倉威、到来

地獄の思い出（後書き）

作者のテス勉が難航のため、今回のお部屋はお休みです

ごめんなさい

地獄の王の蛇（前書き）

どうも、ファントムです!!

テスト終わったぜー！ー！！いろんな意味で！

明日はNEW電王を更新します

さて、アンケートに協力してくださった

ミスターサーさん

ラハールさん

ローンさん

矢部野 和麻呂さん

超OKAMAさん

門矢光さん

矢代 瞬さん

灰狼さん

霞 空斗さん

仮面ライダーディケイドさん

疫病神さん

ブラッキンさん

カイザーさん

超人類さん

牙王さん

GN-Xさん

夢を追う男さん

紫騎士さん

断空我さん

デカさん

コアさん

タマシーコンボさん

漆黒のナイトさん

それ散るさん

ありがとうございます！！

結果はタイトルどおり、圧倒的な3でした！！

地獄の王の蛇

影山

「ああああああああああああああああああ……！！！！！！！！！！」

フェイト

「瞬……落ち着いて……」

フェイトは影山の体に抱きつき、彼を止めようとしている

影山はさっきまでのどこか狂った人格ではなく、本物の影山のもの
で間違いなかった

カゲヤマとの戦闘の傷が痛む中、フェイトは錯乱している影山の名
を呼び続けた

全てを否定し、現実を拒絶するかのように耳を抑え、頭を振る影山
そんな影山をフェイトは抱きしめ続けた

しかし、それも限界が近づこうとしていた時

……悪夢きせきが起きた……

浅倉

「さっきからガタガタとうるさい……イライラするんだよ……！」

ゲシッ！

フェイト

「なっ……！」

影山

「……！」

少し離れた道からやってきた男が、フェイトもろとも影山を蹴り飛ばした

フェイト

「………」

フェイトは何も話さない

今までのダメージのこともあって、フェイトは気を失ってしまったようだ……

ピョン・ピョン・ピョン・ピョン

更に、男が来たとたんにホッパーゼクターまでやってくる……

これはホッパーゼクターが男を敵とみなした合図なのだが、今の影山には冷静にそんな事を考える事は出来なかった

ホッパーゼクターがゼクトバツクルに飛び込む

H E N S H I N

C h a n g e p u n c h H o p p e r

P H

「うおおおおおおお！！！！」

男に迫っていくパンチホッパー

普通の人間なら、ここで混乱するところだが、彼は違っていた…

パンチホッパーの姿を見て、彼はさもうれしそうに狂喜に満ちた笑みを浮かべていた…

浅倉

「まさか…こんなガキがライダーとはな…！」

男はポケットからカードケースのようなものを取り出す

蛇の紋章を持ったカードデッキを…

おもむろに右手を、半円描くようにまわす。

同時に左手を脇に下げて、右手を突き出す

浅倉

「変身！」

映し鏡の鏡像の様な物が男を包んでいく

そして…彼は『仮面ライダー王蛇』へと姿を変える

王蛇

「あゝ……遊んでやりたいが時間がない……すぐに終わらせてもら
うぞ、コレでな」

F i n a l v e n t

P H

「うおおおおおおおおおおおおおお……！！！！！！」

浅倉

「……餌になってもらおうと思ったが……コイツはまた今度だな」

そう言った男の顔はどこか楽しそうで、どこか狂喜に満ちていて、
どこか聞いていて悲しいものだった……

男が去った後の場所には

不思議な服装の子供が二人倒れていたという……

影山

「……で、ここはどこのさ？」

フェイト

「私の家だよ。アルフが運んでくれたんだ」

フェイトが指差した方を見ると、俺のケガにはティッシュ1枚で対処して

フェイトのケガにはこれでもかと言うほどに手をかけていた女がいた
オレンジの髪に犬みたいな耳が生えた…耳？

アルフ

「本当に大丈夫なのかい、フェイト！なんでそんなにひどいケガを…」

影山

「いろいろとツツコミたいところはあるけど…それは俺も聞きたいね。なんで俺とフェイトが倒れてたのさ？」

フェイト

「！…何も憶えてないの？」

フェイトが微妙な表情になる

憶えてない？なんのことさ？

俺はキックホッパーになって、木の化け物を倒して…

気がついたらここに運ばれていたんだけど…

フェイト

「いや、憶えてないんならいいんだ。……瞬が元に戻ってくれたなら…」

影山

「？」

最後の方は良く聞こえなかったけど…フェイトは俺が何をしていたか知ってるのか？

自分で自分が何をしていたのか思い出せない…

でも、なんでかな？思い出したら駄目な気が――

アルフ

「ところで、アンタは誰なんだい？」

影山

「影山。フェイトには一度、探し物を手伝ってもらっただけさ」

アルフ

「へえ、アタシはフェイトの使………」

影山

「使用人？」

アルフ

「そうそう、それぞれ！」

お前はドレイクか

フェイト

「ところで、瞬はこれからどうするの？」

影山

「寝る。疲れた」

俺はその辺にあったソファに倒れこむ

フェイト

「え、ここで？」

影山

「あと数分で帰るから、ちょっと休ませてくれ……」

なんか知らないけど、体がすごいダルイ…

ついでに、何か腰が痛い

——ああ…意識が…

……… Z Z Z

S I D E

フェイト

アルフ

「いいのかい、フェイト？コイツ結局寝てるよ」

フェイト

「……きつと疲れてるんだよ。そっとして置いてあげよう」

アルフ

「フェイトがそう言うんなら…」

アルフが寝ている瞬の頬に油性マジックで花丸を書こうとしてる…

止めた方がいいかな？…もう手遅れか

それより、瞬が何も憶えてなくてよかった…

瞬のことを私は何も知らないし、訊きたい事もたくさんあるけど…

彼が苦しんでいる姿をあまり見たくなかった

泣きながら助けを求める彼を見て、胸が締め付けられそうになった…

『ネイティブ』のことが解決したのかは分からないけど…

今はせめて、瞬がいい夢を見れるといいなって思います

フェイト

SIDE OUT

SIDE

アルフ

ああ…フェイトが無事で本当に良かったよ…

倒れているフェイトを見たときは思わず叫んじゃったよ

その時に思いっきり影山って子の腰を踏んずけちゃったけど

まあ、大丈夫そうだね

それにしても変わったカッコしてるねえ

ちょっと触って…

影山

「やめろ。触れんな」

ぎゃあああああ！！！！

起きてたのか！？

…いや、寝てる……寝言？

まあ、悪い奴では…なさ…そう？

変わった奴だけど、フェイトも馴染んでるみたいだし

まあ、今は寝かせておいてやるか

？影山が起きて、高町家に帰宅

？影山が夜まで起きない

ちなみに

影山に対する周囲の評価

なのは・無愛想だけど、優しいところもあるいい人

影山・手間のかかるガキ

他の高町家の家族・辛い過去があっただろう…

影山・平和ボケの日本代表

アリサ・変だけど、面白い奴

影山・味噌の仇

すずか・珍しい人

影山・誰？

フェイト・自分にどこか似ている、力になってあげたい

影山・同じ闇の住人。気が合いそう

アルフ・フェイトの知り合い

影山・ちよつと痛い奴

はやて・年が近いと思った

影山・誰だっけ？

浅倉・あまりイライラしない奴…の予定

影山・尊敬…の予定

矢車・永遠の弟

影山・永遠の兄貴、尊敬、すごすぎる、最高、会いたい、目標、至高の存在、絶対、命令されればなんでもする、等

地獄の王の蛇（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「で、次は誰さ？」

ファ「次はお前も2%くらい関係のある人だぞ」

影山「は？何を意味の分からない事を…」

ファ「それでは、登場していただきますよう…」

霞 空斗さんの『とある科学の超電磁砲 〽今を戦うガタック〽』から鏡祢アラタさんです！！」

アラタ「俺は、鏡祢アラタ。よろしく」

影山「加賀美！？」

アラタ「言われると思ったよ…」

影山「この反応は加賀美じゃないね…ちっ、せっかく知り合いを見つけたと思ったのにさ」

アラタ「え、俺のせい？」

美琴「んなわけないでしょうが…というか、私達の知ってる『影山瞬』とはずいぶん違うわね」

影山「すごいさりげなく会話に介入しやがった…！」

アラタ「同じマスクドライダー同士、仲良くしようぜ？」

影山「（コイツも瞳に闇が見えるな…）どーでもいい」

ファ「時間です…！」

アラタ「もうか…じゃあ、またな影山さん」

影山「闇に堕ちたらまた来るといいさ…」

ファ「それでは、アラタさん。ありがとうございました…！」

地獄の館への道のり（前書き）

アンケートにご協力してくださった

矢部野 和麻呂さん

霞 空斗さん

ラハールさん

ミスターサーさん

仮面ライダーディケイドさん

超OKAMAさん

漆黒のナイトさん

それ散るさん

紫騎士さん

牙王さん

たぬえもんさん

GN-Xさん

KINGさん

超人類さん

疫病神さん

断空我さん

カイザーさん

ブラッキンさん

門矢光さん

矢代 瞬さん

ありがとうございました！！

結果は

？3票？17表でした！

地獄の館への道のり

影山

「…ん〜?」

…あれ?

…ここは…どこだ…?

ああ、そうだ。確か俺はフェイトの家に来て…

そのまま寝てたのか…

フェイト

「あ、起きたんだね、瞬?」

近くにいたフェイトが俺に声をかけてくる…

アルフ

「ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ」

影山

「…フェイト…今何時?」

窓から外を見ればかなり暗くなってるし、長い時間寝てたんだろう
ね…

フェイト

「10時過ぎだよ。ずいぶん疲れてたんだね」

10時、ねえ…まだそんなに遅くはないけど、いつまでもここに
いるわけにはいかないか…

フェイト

「もう時間も遅いし…よかつたら今日は…」

影山

「そうか…世話になったね。俺はもう帰るよ」

フェイト

「えっ…ああ、うん。そうだね……………」

？

妙に歯切れが悪いね…ま、いいさ

影山

「また機会があれば来るよ…機会があればだけどね」

別に長居する必要もないし、さっさと出て行こう

そう思いながら、出口の近くに着いた時

フェイト

「……また…いつか…」

何か聞こえた気がしたけど、気にしない事にした…

フエイトの住んでいるマンションの近くで、ラクガキに気付いた時は
今すぐ戻って、あのイヌミミ女を殴ってやろうかと思った……！

フエイトの歯切れが悪かったのはこのせいか……！！

士郎

「…で、どこで何をしていたんだい…！？」

怒ってる…

行く当てもないし、とりあえず高町家に帰ってきたら

いきなり正座させられて、説教を食らった…

恭也

「本当に俺達…特になのはがどれだけ心配したか…！」

影山

「だから何度も言ってるだろうっ！俺が何をしてたのかは俺が聞いたいくらいだ！」

気がついたら、知り合いの家に運ばれてて、寝てた

そう答えてもコイツ等、全然納得しやがらない…！

桃子

「……………ペラッ……………ペラッ」

あいつはあいつで、『夢遊病』ってタイトルの本を読んでるし！

あれはケンカを売ってると考えて良いんだよねえ…！

なのは

「ま まあまあ。瞬君も反省してるみたいだし？」

美由希

「何で疑問系？」

コントは他でやれ。

士郎

「別に瞬君の言っている事を疑っているわけではないんだ…ただ、せめて連絡はしないってダメだと思うんだ…！」

影山

「じゃあ、アンタは気絶しながら連絡取れるのか？」

士郎

「家族の絆さえあればきっと…」

出来るかつ！！

結局一晩中怒られたけど…

まあ、心配されるのも悪い気分じゃない…

でも、まっくら闇の無間地獄の方がやっぱり俺には合ってるね…

翌朝

なのは

「すずかちゃんの家遊びに行こう!」

影山

「行つてらっしゃい。」

ガキが頬を膨らませる

遊びたきゃ、勝手に遊べば良いじゃないか…

俺を巻き込むな…

なのは

「すずかちゃんも瞬君にもう一度会ってみたいって言ってるし、行こうよ」

影山

「会いたいならそっちから来い、って伝えておいてくれ…」

何で俺がスズカちゃんとか言う奴のために動かなきゃいけないのさ…

なのは

「いいから行こうよ!」

——憎たらしい

ガキの話を聞くのも面倒だし、テーブルの上にたたまっていた新聞を取る

OREジャーナル…聞いた事ないな

『雪男もネツシーも目じゃないぜ……世紀の大発見！』

金色のザリガニだよ！こんなザリガニ、見た事ある？ないでしょ。

金色だったってケチな金色じゃないんだよ。金魚とか——』

……この記事を書いた奴はバカだね。間違いなく

これ以上この新聞を読む気もしないし、新聞をその辺に放る

なのは

「瞬くんってば！行こうよ！」

影山

「い・か・な・い」

恭也

「そうか…それは残念だなあ、瞬の好きなラーメンが余ってるから分けてくれるって言うてたのに…」

影山

「なにグズグズしてるのさ？置いていくぞ」

なのは

「なのはがラーメンに負けた!？」

ガキがなんか喚いているけど、今の俺にはもう何も聞こえない…!

恭也

「そうか!でも、瞬がごねてるうちにバスの時間が過ぎてしまった…少し散歩してから行くか」

そんなわけで、今日の予定は俺、恭也、ガキ、フェレットでラーメンをもらいに行く事に決まった…

大通りを散歩中

影山

「時間は後どれくらいあるのさ？」

恭也

「そうだな…大体20分くらいだな。ちょうどいい暇つぶしでもあればいいんだが…」

そんなものが都合よく…

なのは

「あつ！あそこに占い師さんがいるよ！」

…あるのかよ

ガキが指差した方を見ると、コインを片手で弄んでいる、確かに占い師みたいな奴がいた…

影山

「あんなのが当たれば苦労はないよねえ…」

わざと聞こえるように嫌味ったらしく言ってる…

占いなんて、適当に相手をおだてておけば、それでいいんだろ？

手塚

「俺の占いは当たる…試してみるか？」

…なにさ、コイツ…？

ム力つくなあ…！

影山

「…それはいいねえ…じゃあ、試しにコイツの前世でも見てみるよ」

ガキが抱きしめていたフェレットをひったくって、占い師に投げる

なのは

「あつ、ユーノ君！」

占い師はフェレットを片手でキャッチして、コインを空に弾く

そして、着地したコインを見て、一言

手塚

「…魔王だな」

一同

「……………は？」

手塚

「どこかで高笑いしている姿が見える。ちなみに、名前はラハ…」

影山

「ちょっと待て！それ以上は言っな！！」

というか、このネタが通じる人は何人いるんだろうね…

手塚

「ついでに、俺の前世はバツタ人間だ。名前は一文字……」

影山

「だから、やめろって言ってるだろっ!!」

コイツ…いろいろとヤバイ…

時間も迫ってるし、あんまり関わらない方がいいね…

月村邸、到着

影山

「デカイ家だねえ、いいよなあ…憧れるよなあ…」

俺もこんな家に住んでみたかったな

さぞ、気持ちがいいんだろっねえ…

なのは

「あ…あはははは…」

俺が絡みつくような視線で屋敷を見てると…

ガチャ

ノエル

「恭也様、なのはお嬢様、それに瞬様。いらっしやいませ」

…いかにもな感じのメイドが出てきた…

やっぱり、いい暮らしをしてる奴って妬ましいよねえ…

恭也

「ああ。お招きに預かったよ」

なのは

「こんにちは」

………

ちょっと待てよ………

これだけ金持ちの家なら……

イギリスの名門デイスカビル家……だっけ？

神代劍（地獄兄弟の隠し弟）を知ってるんじゃない？

もし、当たり前なら、そこから兄貴の居場所を知ることだって不可能じゃない……！

ハハハハ……！ここにきてまさか、こんなチャンスがあるなんて……！

影山

[illegible]

笑いが止まらないよ……本当に……！

？ディスカビル家の情報ゲット

？デイスカビル家の情報がゲットできない

地獄の館への道のり（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「ハハハハハ！！」

ファ「きもっ！」

ファ「それでは、登場していただきましょう…

銃王 海さんの『とある世界の少年少女』から涼宮ハルヒさん、
焔^{はた} 柊さん、直井文人さんです！！」
波^{なみ}

影山「多すぎるだろ…この部屋何畳だと思ってるのさ…」

ハルヒ「お邪魔するわよ！」

柊「あ、影山さん。こんにちは。」

文人「はじめまして、影山さん」

影山「…早く終わらないかなあ…」

ハルヒ「あんたってある意味宇宙人よね！ちようどいいわ、SOS
団に入りなさい！」

影山「嫌だね」

柊「影山さんも大変ですね…」

影山「分かってるんなら、休ませてくれ」

文人「さっきから態度が偉そうだぞ…！貴様何様のつもりだ！」

影山「元シャドウのリーダー様だ！」

文人「『元』…ぷっ」

影山「笑ったね？今、笑ったね？」

フア「何か邪悪な雰囲気になってきたからそこまで！」

銃王 海さん、ありがとうございました！！

地獄の進展する物語（前書き）

アンケートにご協力してくださった

ドラえ○んさん

霞 空斗さん

疫病神さん

ミスターサーさん

矢部野 和麻呂さん

K I N Gさん

仮面ライダーディケイドさん

牙王さん

ブラッキンさん

ラハールさん

矢代 瞬さん

漆黒のナイトさん

イーストさん

門矢光さん

超人類さん

紫騎士さん

断空我さん

超OKAMAさん

G N - Xさん

キラさん

ありがとうございました！！

結果は

? 8票? 11票でした!!

地獄の進展する物語

ノエル

「どうぞ、こちらです」

メイドが慣れた手つきで折れたたちを屋敷の中に招く

さつき大笑いして、怪しまれたけど、適当に誤魔化しておいた…

ああ…今日ほど気分のいい日は久しぶりだね…

やっと…やっと兄貴に会えるかもしれないんだ…！

そのままメイドに連れられて、妙に広い部屋につれてこられる…

そこには、ガキ？（アリサ）とガキ？（すずか）と知らない奴が二人いた…

すずか

「なのはちゃん、恭也さん、瞬君、いらっしやい！」

なのは

「すずかちゃん、お邪魔します！」

フアリン

「なのはちゃん、いらっしやい！」

挨拶なんか今はどうでもいい。

それより…

影山

「アンタ、ディスカビル家って知ってるか？」

忍

「…へ？」

とりあえず一番話が通じそうな奴に詰め寄る

「へ？」ってなることくらいは分かってるさ…

でも、俺は少しでも早く兄貴の情報が欲しいんだ…！

恭也

「おい、瞬！いきなり何を…」

影山

「うるさいっ！！…今俺はコイツと話をしてるんだ…黙ってる…！」

俺の尋常じゃない様子に圧されたのか、恭也も押し黙る…というかは、怯んで話せないみたいだね

忍

「えっと 事情が全然分からないけど… ディスカビル家ってのは

聞いたことがないわ」

…何だつて？

影山

「そんなはずあるか！お前、俺を騙して――」

なのは

「瞬君！！」

…ガキが俺の名前を絶叫する…

周りの空気が静まる…

影山

「…ちっ！もういい！…結局ハズレか……期待して損したっ！」

ここにいる奴等の目には、俺はさぞ、嫌な奴に見えるんだろうね…

そう思ったけど、事実は違ってた…

恭也

「すまない、皆……忍、ちょっといいか？」

忍

「え？ええ…」

恭也があの子…月村をどこかへ連れて行き、メイドもそれに付いて行く…

なんで恭也が謝ってんのさ？…意味が分からないね

ファリン

「そ、そうだ！何か飲み物持ってきます！」

メイド？…後で聞いたけど、ファリンって言うらしいね

面倒だからそう呼ぶ事にする

そいつが逃げるように飲み物を取りに行く…

アリサ

「…ちよつと、瞬。どうしたのよ、アンタ？」

影山

「お前には関係ない…」

すずか

「そのディスカビル家ってお家がどうかしたの？」

影山

「別に…」

なのは

「……瞬君、もう少しちゃんとお話しようよ…」

影山

「うん。みんなで仲良くお話しようね！……これで満足か？」

全員がうわぁ…っていう目を向けてくる…

おい、ガキ^{アリサ}？。今さりげなく「キモッ！」って言っただろ

ファリン

「はーい！お待たせしました！イチゴミルクティーと、クリームチーズクッキーです！」

ファリンがご大層なものを運んでくる…

あれは転びそうだね…

ファリン

「よいしょ…って、うわぁ！！！」

やっぱり、何もないとこで転んだ…

しかも、ちょうどテーブルに置く寸前だったからきれいに俺に向かって落ちてくる

すずか

「瞬君、危ない！」

影山

「はあ…」

あんまり俺をなめるなよ…ガキ^{すずか}？

仮にもエリート集団の隊長だった俺が身体能力が上がった状態でこの程度受け止められないはずがないじゃないか…

パシッ

片手で盆、もう片手でファリンを軽々と受け止める…

ファリン

「あわ〜！瞬君ごめんなさ〜い！！」

アリサ

「それにしても…すずかん家は相変わらずネコ天国ね」

本当にネコばかりだ…正直ジャマだ…

なのは

「本当、子猫たちカワイイよね」

会話に入るのも面倒だし、適当に食い物だけ食っとく…

はあ…

すずか

「うん！里親が決まってる子もいるから、お別れもしなきゃいけないけど…」

お別れ…か……光に背を向けて、一緒に地獄の中をのた打ち回っていた兄貴…

…今すぐにも会いたいよ、兄貴…

なのは

「っ！！」

ユーノ

「はっ！」

…ん？

ユーノ

「パタパタパタ……………」

なのは

「ユーノ君！？」

フェレットが逃げた…？

アリサ

「およ？ユーノどうかしたの？」

なのは

「う、うん。何か見つけたのかも…ちょっと探してくるね！」

すずか

「一緒に行こうか？」

なのは

「大丈夫。すぐ戻ってくるから待っててね」

ガキがフェレットの逃げた方に走っていく…

このパターンは…

ピョン・ピョン・ピョン・ピョン

…やっぱりか…

アリサ

「おわっ！瞬、何なのそれ！？」

すずか

「バ、バッタ！？」

跳んで来たホッパーゼクターを見て、イスから転げ落ちそうになるくらい驚く…

2人を無視して、ホッパーゼクターは「付いて来い」って言うみたいにガキがいった道をたどっていく…

影山

「あゝ、ホッパー君が逃げたゝ。追いかけないとゝ」

アリサ

「ホッパー君!？」

ガキ共を無視して、俺はのんびりとホッパーゼクターを追いかけていく…

H E N S H I N

C h a n g e p u n c h H o p p e r

P H

「で、来てみたけど…」

なんだ？最近俺を驚かす事でも流行^{はや}ってんの？

なんでフェイトとガキが戦ってるのさ？

？ガキに加勢

？フェイトに加勢

？傍観決め込む

地獄の進展する物語（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「今度は誰さ…？」

ファ「今回はすごいぞ…！この小説とも地味に関連してるあの人だ！」

ファ「それでは、登場していただきましょう…」

キラさんの『魔法少女リリカルなのはStrikers』龍の影を纏いし騎士』から城戸真司さんです！！」

真司「どうも！OREジャーナルの城戸真司です！」

影山「もしかして…この前のバカみたいな記事を書いた奴…？」

真司「なっ…バカみたいってヒドイな！あれでも徹夜して書いたんだぞ！」

影山「そうだよな。バカなりにがんばったんだよなあ？」

真司「皆して人をバカバカって…こうなったらグレてやるう！」

影山「で、お前はどんな地獄にいるのさ？」

真司「ん？ああ、それはこれを見てくれ！」

『終わりのない戦いが終焉した、ある日…』

真司は黄金のキノコを求めて、森を搜索していた

そこで出会ったのは、かつての友

そこで手にしたものは、龍の紋章

時間の繰り返しの影響で時空が歪み、真司を異世界へと連れて行く…

真司の運命やいかに!?!』

影山「お前もいろいろと苦労してるんだね」

真司「そうそう!それに、シグナムには毎日しごかれるし…あつ、あと…」

ファ「はい、そこまで」

真司「それじゃあ、皆!『魔法少女リリカルなのはStriker S』龍の影を纏いし騎士」をよろしくな!」

ありがとうございます!!

地獄の折れた心（前書き）

今回少し暗いけど、次回はコメディ90%なので、安心してくだ
さい

ついでに、一文字隼人（THE NEXT）が主人公の短編書こう
と思ってるんですけど、ネタがない…

クロス話で行こうと思うんですけど、何かいい案はありませんか？

意見を下さる方がいれば、どうか感想に送ってください

アンケートに協力してくださった

仮面ライダーディケイドさん

疫病神さん

KINGさん

矢部野 和麻呂さん

カイザーさん

断空我さん

ラハールさん

霞 空斗さん

ブラッキンさん

超OKAMAさん

GN-Xさん

牙王さん

門矢光さん

漆黒のナイトさん

555さん

矢代 瞬さん
それ散るさん
闇色の月さん
超人類さん
ベルトさん
マカロニさん
キラさん

ありがとうございました！！

結果は

？9票？13票でした

地獄の折れた心

フェイトの服が黒いマントに水着みたいなのになってる…

アレは…？

フェイト

「ロストロギア『ジュエルシード』…」

Scythe Form・Set up・

フェイト

「申し訳ないけど、頂いていきます」

ジュエルシード？…ああ、あの宝石そんな名前だったんだ

フェイトは俺と話していたときとは別人みたいな態度だし…

それに、何だ…？

俺はフェイトのあの姿を見たことがあるような気がする……

とりあえずは様子を見るか

何でフェイトがここにいいのか、そもそも、あの宝石はなんなのか…

少しは手掛かりが掴めるかもしれないしね

おーおー、フェイトが鎌みたいなのからビーム撃った…

あれ、ガキ死んだんじゃないか？

あ、フェレットがキャッチした…

まあ、ガキの方は気絶してるみたいだけど、大丈夫そうだね

それより…フェイトが宙に浮いていたあの宝石を取ろうとしてる…

ちょうどいい機会だし、あれが何なのかハッキリさせるか

ゼクトバツクルのトレーススイッチをスライドする

^{パンチ}
P ホッパー

「クロックアップ…」

C l o c k U p

…世界が止まって見える……………

ゆっくりと歩きながら、フェイトが掴もうとしていた宝石を横取りする…

C l o c k O v e r

フェイト

「…え？」

フェイトが驚いたように目を見開く…

^{パンチ}
P ホッパ―

「探してるのはコレかなあ？」

俺の声に反応して、フェイトがコツチを向く

必死に動揺を隠してるみたいだけど、あきらかに俺の姿に『恐れ』を感じてるね…

フェイト

「…それを渡してください」

^{パンチ}
P ホッパ―

「コレが何なのか教えてくれるなら、別にくれてやっても良いよ…」

少し躊躇うような素振りを見せてから、フェイトは口を開く…

フェイト

「それは、使用者の願いを叶えるロストロギア…ジュエルシード…これでいいですか？」

…使用者の願いを叶える………？

…この宝石が…？

フェイト

「…今度はこちらからの質問です。あなたは何者ですか？」

^{パンチ}
P ホッパー

「そんなことはどうでもいいさ…！それより、本当にコレは願いを叶えてくれる物なのか…！？」

フェイト

「だとしたら、どうするんです…？」

^{パンチ}
P ホッパー

「逃・げ・る」

C l o c k U p

フェイト

「なっ！」

ああそうだ…ついだから、ガキに預けていた分も利子を付けて返してもらおう…

どうやって取り出すのか分からないから、とりあえずガキの杖を地面に何度も叩きつけてみたら簡単に出てきた…

これで、計6個…

これで…！これで俺は兄貴に会えるんだ…！！

——ソナモンデ帰ラレタラ、ツマラナイ…俺ガ抑エテヤル

っ！

今のは…気のせい…？

影山

「なにさコレ！！全然役に立たないじゃないか！！！」

なんと兄貴に会いたいと願っても、何も起きやしない…！

6個全部使っても同じだ…！

はあ、とため息をひとつ。

結局…俺は兄貴に会えないのか……

また、俺は独りになるんだ…

SIDE

恭也

恭也

「忍…ちょっといいか？」

忍

「え？ええ…」

忍が呆然としている…

無理もないが、今は早く忍に尋ねたいことがあった

ノエルにも付いて来てもらい、忍の部屋にやって来る

忍

「恭也…あの子は…」

何者だ？

そう訊きたいんだろう…

恭也

「俺達も詳しくは聞いてない…いや、訊けなかった。本人がいない所でこんなことを言うのは気が引けるけど…」

俺は一度息を吸って言葉を続ける

恭也

「あいつの目は死んでる…最初からあきらめて、絶望し切っている目だ…でも、あいつは兄の話をする時だけは、生きている目になる。それで、さっき忍に詰め寄った時のあいつの目は…」

ここから先は言うまでも無いし、忍も察してくれたみたいだ
少し卑怯な訊き方だったかもしれないが、俺も出来るだけ瞬の力にな
ってやりたいんだ…

あいつの瞳は悲しすぎる…

あの歳でどうすればあんな瞳になるんだ…？

忍

「そう…。でも、私がディスカビル家という家を聞いた事がないのは本当なの…ごめんね 力になれなくて」

恭也

「いや、こっちこそ急にこんなこと言ってすまなかった…それにしても、ディスカビル家って一体なんなんだろうな？」

ついでに、後で瞬に訊いてみたら、小さく「サソード」と呟いてい
た…

結局なんだったんだ？

恭也

SIDE OUT

SIDE

フェイト

ジュエルシードを持っていかれた…！

それに…どこから現れたのか、どうやって逃げたのかすら分からなかった…

あのスピード…

フェイト

「まさか……ネイティブ…？」

もし、そうなら……瞬の事と、今回の事……絶対に許せない…！

必ず見つけ出してみせる

フェイト

SIDE OUT

S I D E

なのは

自分の部屋

なのは

「ない…！」

ジュエルシールドが一つもない…

もしかして、あの子が…？

どうしよう…

どうしよう………

そうだ…前みたいに瞬君がアドバイスをくれないかな…？

そう思った時にはすでに、私は瞬君の部屋へ走っていました…

なのは

「瞬君！」

影山

「……………」

なのは

「ちょっと相談に乗って欲しい事が…って瞬君？どうかしたの？」

どうしたんでしょう？

瞬君の様子が少し変です…

いつもなら、私が勝手に部屋に入った事に対する嫌味の一つでも言うのに、今日は無言です…

影山

「……俺は……………」

なのは

「え？」

影山

「俺はもう二度と立ち上がれないんだ…俺は永遠に独りだって知ってしまったから…」

瞬君…？

どうしてそんなに悲しい目をしてるの？

どうしてそんなに悲しい事を言うの…？

影山

「兄貴には会えない…誰も俺に振り向いてくれない…俺はまた、誰にも相手にされなくなるんだ…」

ハッキリとは聞こえなかったけど…瞬君はその後小さく呟いていました…

「死にたい」って…

？影山を優しく諭す

？影山を大声で怒鳴る

地獄の折れた心（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「いい加減に終われよ」

ファ「じゃかしいわ、ボケエ」

ファ「それでは、登場していただきましょう…
門矢光さんの『ディケイド・inkクロスワールド・闇の神と黙示録』
から十六夜朔夜さんです！！」

朔夜「おー、よう影山」

影山「お前かあ…なんかいろいろとライダーの力を持つてる奴って
言うのは…？」

朔夜「いや、それほどでもないぞ。ちょっとチートだけだな」

影山「ふん…それで、お前はどんな地獄にいるのさ？」

朔夜「はい、これ」

『十六夜朔夜は各世界を回り、旅をしてきた
しかし、彼の物語は彼の死で終焉を迎える…
だが、彼は生きていた…小室孝として
彼の物語戦いの中で輝く』

影山「え、つまり何？」

朔夜「くわしくは、小説本編を見てくれ」

ファ「時間デース」

朔夜「じゃあまたな、影山」

影山「そうだねー。」

ファ「照れ隠しするなよ？」

ボキミシアバキッ！！

影山「『ありがとうございます！』…だってさ…」

地獄の底からの復活（前書き）

本当はギャグを入れるつもりだったんですが中途半端にシリアスになったため

今回はシリアスを一貫して、ギャグは全て次回にまわす事にしました
その分、更新は早くなります
作者の独断で申し訳ございません
それにより、今回短いです

アンケートに協力してくださった

ラハールさん

矢部野 和麻呂さん

断空我さん

超OKAMAさん

霞 空斗さん

マカロニさん

漆黒のナイトさん

ベルトさん

カイザーさん

GN-Xさん

闇色の月さん

疫病神さん

門矢光さん

牙王さん

超人類さん

ブラッキンさん

KINGさん

矢代 瞬さん

913さん

それ散るさん

ありがとうございます！！

結果は

？2票？18票でした！！

地獄の底からの復活

彼は見て欲しかった…

憧れのあの人に、自分を

彼は戻って欲しかった…

憧れていた、あの姿に

彼は連れて行って欲しかった…

共に堕ちた、あの人に

誰かに見てもらうためには、自分の力を証明しなければいけない

自分の力を証明するためなら、憧れの人さえ蹴落さなければいけない

誰かを蹴落とすためなら、嫌な奴の力も借りなくてはいけない

嫌な奴の力を借りるには、どうすればいい…？

俺は、どうすればよかったんだ？

知ってるんなら教えてくれよ…

天道…天の道を往くお前なら分かったのか？

加賀美…バカまっすぐなお前なら迷わなかったのか？

風間大介…風みたいなお前なら壁にぶつかる事はなかったのか？

神代剣…頂点を極め続けるお前なら他人を蹴落とす事はなかったのか？

兄貴…兄貴なら俺を分かってくれるよね？

俺の味方は兄貴だけなんだ

だから…もう一度、兄貴に会いたかったよ……………

でも、もう疲れたんだ…

俺は先に本当の地獄で待ってるね、兄貴…

できるだけ、兄貴も早く来てくれよ…

なのは

「どうして……！」

.....

なのは

「どうしてそんな悲しい事言っの……！」

ガバッ！！

… 胸倉を誰かに掴まれる………

… なにさ、コイツ……？

このガキは…

ああそうだ……いつも楽しい家族に囲まれて幸せそうにしてるガキだ……
どうせお前もおれのことを後ろ指差して笑ってるんだろ……

影山

「俺は……待ち合わせの場所に行くんだ……ジャマするなよ………」

なのは

「っ……ジャマするよ……瞬君はどうして……！」

どうしてそんなに弱いのか？

どうしてそんなに醜いの？

どうしてそんなに汚いの？

…それとも、もっと汚い罵倒が飛んでくるのか…？

言いたいなら言えよ…

なのは

「どうして私達をちゃんと見てくれないの…！」

影山

「……………俺が…お前達を見てない…？」

なのは

「誰も見てくれない事なんてないよ！少なくとも私はいつも瞬君を頼ってたよ…今だって瞬君に相談があつてきたんだもん…！」

影山

「……………」

なのは

「だから…瞬君もいつもみたいに笑ってよ…！嫌味を言ってよ！お願いだから…『死にたい』なんて言わないで…」

ガキがポロポロと涙を流してる…

なんで泣いてるのさ？

お前が泣く理由がどこにあるのさ？

分かったような口を利きやがってさ…！

影山

「お前なんか……お前なんか慰めて欲しくなんか無いんだよっ
！！このクソガキ！！！」

なのは

「あはっ…やっと…いつもの瞬君に戻ってくれた……」

影山

「ふんっ！誰かがうるさいせいで、ロクに寝る事もできないなあ…
早く出て行ってくれと助かるんだけどなあ？」

ガキに貞子も真っ青のガンを飛ばしていると、ガキはゆっくりとした足取りで部屋を出て行く

なのは

「後でなのはの相談にも乗ってね、瞬君♪」

ガキが涙の跡を拭きながら、笑顔で訊いてくる

俺もそれにっ少しだけ微笑んで答える

影山

「嫌だ」

影山

「ふん…それはそうと、コレはどうするかなあ…?」

ガキが部屋を出て行った後に小さく呟く…

俺が手に持っているのは、6個の青い宝石…

ガキにくれてやっても良いけど、話がめんどくさくなりそうだしね…

それとも、フェイトにやるのも良いかな…

ま、いつか役に立つかもしれないし、持っておくか…

夕食時

恭也

「なのは、瞬、もう大丈夫なのか?」

なのは

「うん。ごめんね、お兄ちゃん…心配かけちゃって…」

影山

「転んで怪我したんだって? 恥ずかしいねえ」

ま、本当はフェイトの攻撃で怪我したんだろうけど…

なのは

「良かった…。もう、いつもの最低な瞬君だ！」

士郎

「それは褒めてるのか…？」

桃子

「でも、瞬君が急に大人しくなっても…ねえ？」

美由希

「絶対に不気味だよな」

そうか、分かった…。こいつ等は敵だ

でも…なんでかなあ…？

今のこの状況を気に入り始めてる自分がいる…

？いや、光を求めれば、しっぺ返しを食らう…所詮は虚像の家族だ…

？兄貴が見つかるまでなら…

地獄の底からの復活（後書き）

どうも、ファントムです！！

今回は影山の部屋をお休みして、特別アンケートをとろうと思います！

前回、一文字のss短編でネタ提供していただきました！

ありがとうございます！！

そこで…

？ドラゴンクライシス

？恋姫無双

？オールライダー対ディショッカー

？クロスなし

？この小説とクロス

のどれかで行こうと思います！！

投票お願いします！！

地獄の温泉旅行（前書き）

アンケートにご協力してくださった

銃王 海さん

ラハールさん

ブラッキンさん

ベルトさん

仮面ライダーディケイドさん

漆黒のナイトさん

疫病神さん

闇色の月さん

夢を追う男さん

善宗さん

牙王さん

門矢光さん

K I N Gさん

霞 空斗さん

カイザーさん

マカロニさん

断空我さん

超O K A M Aさん

G N - Xさん

紫騎士さん

O K A M A傭兵さん

矢代 瞬 さん

タバさん

ありがとうございました！！

結果は…

？4票？17票でした！！

そして、一文字の短編は…

？この小説とクロス

に決まりました！！

A , s 開始前に、はやてがりジェクションで死にかけている一文字を助けて、そこから一文字に関わったせいで、シヨツカー改造人間に狙われる…という話で行こうと思います！影山ももちろん出ます！

すずか

「ファリンが……瞬君をとっても気に入っちゃったんだ……ちょっと異常なくらいに……」

…皆さん、聞きましたか？

すずかちゃんの専属メイドさんこと、ファリンさんが…

なんと、瞬君を好きになってしまったんです…

なのは

「でも、どうして瞬君？瞬君は実際、知れば知るほど駄目な人だよ？」

すずか

「うん…ツツコミは置いておいて、ファリンは私が小さい頃から、ずっと私に仕えてくれたから」

ほとんど男の人と出会う機会がなかったんだ…それで、前に瞬君に助けてもらった時に運命を感じたって…」

そのまま、すずかちゃんが私に何かを手渡ししてくれます

それは、一通の手紙でした

すずか

「年の差が六歳（本当は影山が5歳年上）なら、将来イケますっ！…って。あと、これ瞬君に渡しておいて欲しいって」

なのは

「うん…それはもちろん良いけど…」

ファリンさん…大丈夫かな

なのは

SIDE OUT

なのは

「はい、瞬君」

影山

「なにさ…コレ？」

ガキが妙にラブリーな封筒を渡してくる

ガキの方を見れば、なにか遠い目をしてるし…

…とりあえず、封を開封して、封筒の中身を取り出すと、一枚の手紙が入ってた…

そこにはかわいらしい丸っこい字で……

[illegible]

好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き

好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き

好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き好き
『好き』

怖
つ
!
!

何の嫌がらせさ、これは！！

なのは

「瞬君？チラリ……って、怖っ！！」

ガキもおんなじ反応してる……

ってことは、これはガキの仕業じゃないのか…？

影山

「…それで、この不幸の手紙はどこから仕入れてきたのさ？」

なのは

「えーっと…ファリンさんって憶えてる？」

ファリン？

どこかで聞いた気もするね……

あゝ、そういえば、あのでかい屋敷のメイドだっけ？

…ん？

影山

「まさか……」

なのは

「多分…いや、絶対にストレートに気持ちを伝えようとしたんだろ
うけど…」

そうか…やっぱりね…

うすうす、そうだろうと思っていたよ…

あいつらのご主人様に怒鳴った事に対する嫌がらせか…

でも、甘いなあゝ。どうせなら、人質を取るとか、弱みを握って
コキ使う方が効果的なのに

あのでかい家なら、相手を社会的に抹殺するっていう手もあるね…

なのは

「それで、今度の温泉旅行の時に、2人でゆっくり話がしたいって
…」

2人でゆっくり話がしたい〓タイマンで終わらせてやるよ

…なるほどね

俺に喧嘩を売るなんて、いい度胸してるじゃないか…！

影山

「いいよ…その温泉旅行、俺も付いて行つてやるよ…！」

なのは

「…え？」

影山

「俺も付いて行くって言ってるんだ…もっと喜べよ。ああ？」

なのは

「う、うれしいけど、もうちょっと落ち着いてくると、もっとうれしかなー…」

その日、俺が旅行に付いて行くと言ったら、急に晩飯に赤飯が追加された…

旅行当日

旅館に向かう車内にて

ファリン

「瞬くーーーーん!!!!会いたかったよーーーー!!!」

影山

「俺も会いたかったよ……!」

ファリン

「本当ですか!?!?!うれしい」

影山

「今は面倒だ…後でケリをつけてやるよ…!」

ノエル

「…お嬢様、あの子を放置しておいてよろしいのでしょうか…?」

すずか

「今は自由にさせてあげて…」

影山

「いいよなあ、俺も一度でいいから『お嬢様ちゃん』って呼ばれ

てみたいよ…」

ファリン

「私が呼んであげます！お嬢様ちゃん！！」

旅館へ到着

佐野

「いらっしやいませ。こちらへどうぞ」

旅館に到着すると、清掃服を着た男が出迎える…

バイトか？

佐野

「いやあ、きれいな車っすね！でも、こついう車をきれいにする人って、心もきれいだっていいですよ？いやあ、すごいなあ。俺なんかじゃ絶対に真似できませんよ。憧れるなあー！」

忍

「え？ええ、ありがとう…」

… なんてだろ？

この清掃員とはすごい気が合いそうな気がするよ…

佐野

「それでは、よい旅行を！…ところで、車のウィンドウ磨きまじょうか？」

忍

「あ、いえ。結構です」

佐野

「はい、お節介な事言ってすいませんでした！（ちえっ、前に来た金持ちのおじさんみたいに、おだてとけば万札握らせてくれると思っただのに）」

温泉前

なのは

「瞬君も一緒に入ろうよ！」

影山

「嫌だね。というか、なんで俺がお前なんかと風呂に入ってやらなくちゃいけないのさ？」

状況は大体分かるか？

いざ、温泉に入る事になって、男湯と女湯で別れようとしたら

『 9歳までのお子様はどちらでもかまいません 』

ガキが面倒なものを見つけた…

別にガキ共と入りたくもないし、むしろさっきの清掃員と少し語りに行きたいところなのに…

しかも、大人組はなにか微笑ましい物でも見るような目で見てるし…！

なのは

「ほら、9歳までなら一緒に入れるんだよ？今年までしか駄目なんだから、一緒に入ろうよ！」

影山

「俺は20歳だ！どうしても入りたいんならお前が来い！」

なのは

「え？それは恥ずかしいかな…。アリスちゃんとすずかちゃんも瞬君と一緒に入りたいよね！？」

アリス

「いや、あんまり…」

すずか

「私もちよつと恥ずかしいかな…」

なのは

「うー！（せっかく瞬君が来てくれたんだから、少しでも思い出作りしたいのに）こうなったら…ファリンさん！！」

ファリン

「はい！」

？羽交い絞めで無理やり連れて行かれる…

？逃げる

地獄の温泉旅行（後書き）

影山の

お話ししようよ……の部屋！！

影山「あー、ハイハイ」

ファ「感動の再会！」

影山「は？何を意味の分からない事を……」

ファ「それでは、登場していただきましょう……」

霞　空斗さんの『とある科学の超電磁砲　く今を戦うガタツク』
から矢車ソウさんです!!」

矢車「初めまして……になるのかな？私は矢車——」

影山「兄貴——！！！！！！！！！！」

矢車「おつ、おおお！？」

影山「会いたかったよ、兄貴！！今までどこにいたのさ！？」

影山?「貴様!そんな汚らわしい体で矢車さんに抱きつくな!」

影山「え？」

影山？「…あれ？」

矢車「…これは……」

矢車、影山二人に挟まれるの図

影山「…影山瞬？」

影山？「影山シュン」

2人「……………」。

矢車「…ワームか？」

影山ズ「…こいつが偽者です（だよ）！！」

ファ「両方本物だ……」

グダグダでしたが、ありがとうございました！

地獄の友（前書き）

アンケートに協力してくださった

霞 空斗さん

疫病神さん

ラハールさん

矢代 瞬さん

矢部野 和麻呂さん

ベルトさん

ブラッキンさん

ミスターサーさん

仮面ライダーディケイドさん

漆黒のナイトさん

超OKAMAさん

闇色の月さん

555さん

夢を追う男さん

断空我さん

GN-Xさん

マカロニさん

紫騎士さん

カイザーさん

牙王さん

KINGさん

門矢光さん

超人類さん

OKAMA傭兵さん

ありがとうございました！！

結果は…

？ 1 1 票？ 1 3 票でした！！

地獄の友

偉い蟹は言いました。

卑怯もラッキョウも大好きだぜえー！！、と

つまり、卑怯な事〓悪い事 ではないのです

そう、つまり、今俺が逃げてても誰も文句は言えないんだ

影山

「というわけだから、俺は逃げる。晩飯の頃には戻ってくるよ」

ファリン

「逃がしません！！」

ファリンが俺を後ろから羽交い絞めにしようとするけど、俺がそれを避けられないわけがない

とりあえず、体を少しそらして、ファリンを避けて、どこともなく歩いていく

なのは

「あゝゝ！瞬君、待ってよゝゝ！！」

影山

「しっしっ、あっち行けクソガキ」

付いて来ようとするガキを制止して、振り向くことのないまま去っ

ていく

佐野

「いらっしやいますー!!」

影山

「おい」

佐野

「ん?あれ…御宅^{おたく}は……」

影山

「影山だ…ちょっと話がある」

アリサ

「はあゝ。温泉気持ちよかったわね」

すずか

「本当。来て良かったよ」

なのは

「瞬君も来ればよかったのに…」

結局、温泉には、私、アリサちゃん、すずかちゃん、お姉ちゃん、忍さんで入りました

瞬君と一緒に入りたかったな…

ファリンさんも瞬君を探しに言ったまま帰ってこなかったし…

そんな事を考えていると…

アルフ

「はあゝい!!!オチビちゃんたち!」

なのは

「えっ」

誰かに声をかけられました

あの人は…誰だろう？

オレンジの髪に、浴衣を着た女の人が私達を見つめています

アルフ

「君かね、うちの子をアレしてくれてるのは？」

影山

「お前かアア…俺にラクガキがったのは…？」

アルフ

「ぎゃあああああ！！！！で、っで、出たー！！？」

……………瞬君？

この人と知り合いなのかな？

ずいぶん怒ってるみたいだけど

アルフ

「って、アンタは！何でこんなところにいるんだい！？」

影山

「お前に…いろいろと礼がしたくてねえ…！」

アルフ

「え？……………いや……………あの…そうだ！アタシはアンタを一度助けてあげたよ！！！」

影山

「あの時、妙に腰が痛かったんだけどなあ？」

アルフ

「……………。……………うん」

バツ！タツタツタツ…

アリサ

「…逃げた」

すずか

「逃げたね」

なのは

「結局なんだったんだろう…？」

あの女の人が見えなくなつて、瞬君はまたどこかへ行こうとします

せつかくの旅行だから、一緒に遊んだり、旅館を探検したいのに…

でも、瞬君にそんな事を言っても、不機嫌になるだけなので、口には出せません…

佐野

「おい、瞬。どうかしたの？」

影山

「ああ…悪いね、満。ちょっとム力つく顔があつたもんだから…」

佐野

「気にしないでよ。ところで……この子達は……？」

清掃員さん……後で聞いたところ、佐野満さんって、いうみたいです

佐野さんが私達の方を怪訝そうに見ています

なのは

「初めまして、高町なのはです！瞬君とは家族みたいなものです」

アリサ

「アリサ・バニングスです。瞬とはよく分からない関係です」

すずか

「月村すずかです。瞬君とは……なんだろう？」

すずかちゃんが首を傾げて考えていました。

……確かに、瞬君とすずかちゃんの関係ってなんだろう……？

影山

「こんな奴等ほつといて、行こうよ、満……」

佐野

「えっ、いいの？旅行なんだろう？」

佐野さんの問いに答えることなく、瞬君は佐野さんと肩を組んで歩いていきます

体格差のせいで、佐野さんが少しかわいそうな状態に…

というか、あの二人はどうしてあんなに仲良くなったんでしょう？

2人は媚び売りライダーズ（佐野は今は違うが）

SIDE

アルフ

露天風呂

はあ、ここの風呂は気持ちいいねえ…

さて、それじゃあご主人様に今回の事を報告しようか

フェイトに『念話』をかける…

アルフ

「（あー、もしもしフェイト？こちらアルフ）」

フェイト

「（うん）」

アルフ

「（ちょっと見てきたよ、例の白い子）」

フェイト

「（そう…どうだった？）」

アルフ

「（ん）ま、どって事ないねえ。あれならまだ瞬の殺気の方が強そうなくらいだよ」

フェイト

「（……どうしてそこで瞬の名前が出てくるの？）」

アルフ

「（いや、なんでか旅館（こ）に居てねえ……ものすごい形相で睨まれたよ……）」

ちよっとだけ……本当にちよっとだけ怖かった……

フェイト

「（そっか……瞬が……私も後で行ってみようかな……）」

……？

どうしたんだろうね、フェイトの様子が少し変だ……

ま、気のせいかな

アルフ

SIDE OUT

桃子

「ファリンちゃん、もう子供たち寝ちゃった？」

ファリン

「はい、桃子さん。もうぐっすり寝てますよ」

瞬君だけは、帰って来ていませんけど

瞬君は一体どうしたんでしょうか？

晩御飯には帰ってくるって言ってたのに…

時間も遅いし、心配です…探しに行ったほうがいいのかな…？

一方そのころ

佐野

「それで俺、親父に勘当されちゃってさ。あの頃はいい暮らしが出来てたのに……」

影山

「分かるよ！その気持ち……。俺だって必死に働いてたのに、最後はゴミみたいに捨てられたんだよ？その途端に全部つまくいかなかったんだ…」

佐野

「俺達……友達…だよね…？」

影山

「もちろんさ……！俺達は俺達は同じ穴のムジナだ……フッフ……ハハハ
ハハハハハハハハ！！！」

2人仲良くつるんでましたとさ…

？ホッパ―ゼクター到来で戦いに行く…（フェイトフラグ成立）

？佐野と一晩中語りつくす（佐野のレギュラー入りが決定）

余白が多かったのだ

この世界における、人間性図鑑（現時点）

なのは……とりあえずは話し合いで解決しようとするあたり、普通

影山：他人はどうでもいい

高町家……目の死んでる少年を引き取るあたり、かなりいい人たち

フェイト……身を挺して影山を救う反面、なのはには問答無用

アリサ…ラーメンの仇

すずか…至って普通

ファリン…悪気はない、でも着実に恐怖を与える

ユーノ…ゼロノス並に存在を忘れられた男

浅倉…論外

地獄の友（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「わー、パチパチ」

ファ「気の会う友達が出来てうれしいんだね」

影山「平和ボケ町では珍しい奴に会えたよ…！」

ファ「ちなみに、次回、王蛇再臨！？」

ファ「それでは、登場していただきましたしよう…」

矢部野 和麻呂さんの『魔法少女リリカルなのは ANOTHER

AGITO STORY』から木野 薫さんです！！」

木野「私は木野 薫…元医者です」

影山「おお…おお…！なぜかこの人には敬意を払わないといけない気がするよ…」

木野「そんなに畏まらなくても結構ですよ」

影山「木野さんはどんな地獄に？」

木野「それは…」

『命を懸けて、アギトを救った男、木野 薫…』

死んだはずの彼が目覚めると、そこには金髪の少女が居た…
アナザーアギトが創る、もう一つの戦いが始まる……』

影山「なんか既視感が…」

木野「気のせいですよ」

影山「木野さん、ありがとうございました！」

影山の敬語に違和感…

ありがとうございました！！

地獄のアルフファンは絶対に見ないでね♪（前書き）

アンケートに協力してくださった

まず

？10票？12票により

佐野君のレギュラー入りは決まりました！！

でも、あまりに僅差だったので、両方を若干ミックスした感じにしてみました

アンケートにご協力してくださった

断空我さん

カイザーさん

霞 空斗さん

疫病神さん

漆黒のナイトさん

ラハールさん

牙王さん

ミスターサーさん

GN-Xさん

矢部野 和麻呂さん

矢代 瞬さん

超OKAMAさん

OKAMA傭兵さん

ブラッキンさん

紫騎士さん

門矢光さん

夢を追う男さん

ミラージュさん

闇色の月さん

理想を追い求めし者さん

それ散るさん

ケイスケさん

ありがとうございました！！

地獄のアルフファンは絶対に見ないでね♪

旅館の庭

アルフ

「うっは、すごいね、こりゃ！これがロストログアのパワーって奴？」

フェイト

「ずいぶん不完全で不安定な状態だけど…」

ロストログア…『ジュエルシード』

眩い光を放つ、あの宝石が母さんが求めているもの…

前の1個はホッパーに奪われたし…今回は絶対に失敗するわけには行かない…！

フェイト

「バルデッシュ…起きて！」

Yes 'Sir

私の愛器、バルデッシュを起動させて、封印の準備をする

フェイト

「封印するよ、アルフ！サポートして！」

私の合図と同時に、鉄柵に座り込んでいたアルフも立ち上がる

フェイト

「ジュエルシード封印!!」

SIDE

なのは

なのは

「ああっ!」

皆さん、こんばんは。

ごくごく普通の小学三年生、高町なのはです!

突然ですが、皆で来た旅館でジュエルシードの反応がして来てみたらこの前の、私のジュエルシードを持っていた(かもしれない)女の子が居ました!

よぉーし、今度こそお話を聞かせてもらいます!!

アルフ

「あゝ、あらあらあら…子供いい子にしてな、って言わなかったのか？」

なのは

「はい、言つてませんでした！！」

笑顔で、でもトゲのある言葉で言われましたけど…正直、言われた覚えがありません

それより…あの人は確か瞬君の知り合いの人のはずじゃ…

どうして、ここに…？

アルフ

「あれ…？あゝゝ、そういえばそうだったけ…ま、まあ、そんな事はどうでもいいんだよっ！！

とにかく、フェイトの邪魔はさせないよ！！」

言い終えた瞬間、女の人の姿が変わりました

夜の闇の中に立っていたのは獣でした

肉食獣らしい青い瞳

鋭い牙の並ぶ尖った口

オレンジの剛毛につつまれた大きな狼…

ユーノ

「やっぱり…アイツ、あの子の使い魔だったんだ!!」

あ、ユーノ君…いたんだ…

って、そんなのきな事を言ってる場合じゃなくて!

なのは

「使い魔!?!」

アルフ

「そーよ。アタシはこの子に作ってもらった魔法生命…製作者の魔力で生きる代わりに
命と力の全てをかけて守ってあげるんだ…先に帰ってて、フェイト。
すぐに追いつくから」

フェイト

「うん…無茶しないでね…」

フェイト…あの子、フェイトちゃんって言うんだ…

フェイトちゃんは金色の髪をなびかせながらスタスタと去っていきます…

待って…そう言おうとしたその瞬間…

その瞬間を待っていたかのように、「それ」はやって来ました

王蛇

「ここかア…祭りの場所は…？」

…え？

ユーノ

「誰だ！？…どうやって結界の中に…！」

…バツタさんじゃない…あれは…

…蛇？

アルフ

「なんだ、なんだ…アンタ…何者だい！？」

王蛇

「ア、ア、…目が覚めてからモンスターもライダーも居なくてイライラしてるんだ…」

お前、オレと遊んでくれよ…」

アルフ

「何を訳の分かんない事を…！」

狼さん…アルフさんという名前らしいです

アルフさんが蛇の人に飛び掛ります

危ない…！…！…！そう言おうとした瞬間でした

Sword Vent

・・・一瞬でした

まるで、虫でも追い払うかのような手つきで軽々と吹っ飛ばされてしまったんです・・・

・・・
アルフさんが

アルフ

「あ・・・ぐう・・・アンタ・・・一体・・・!?!?」

王蛇

「ほおら・・・何をしている?もっとオレを楽しませろ!」

次の音が私の平常心を粉々に打ち砕きました・・・

ボキッ、と。

鈍く響いたその音は、何かが折れる音でした

アルフ

「――っ!――」

アルフさんが声にならない悲鳴を上げる・・・

動けなくなったアルフさんを何度も何度も剣で殴りつける蛇の人・

私は、まるでその場に縫い付けられたように動く事が出来ませんでした……

悪い夢なら覚めて欲しい……

なのは

「……………なんで……………こんな……………」

結局、アルフさんがピクリとも動かなくなるまで攻撃は続けられました……

王蛇

「フハハハハ……こういうもんなんだろ。違うのか？」

まるで「何か間違った事でもしたか？」とでも言いたげな態度に怒りを通り越して、恐怖が沸いてきます……

背筋に冷たいものを感じます

逃げろ

今すぐに逃げろ

私の頭の中に最大音量の警報が鳴り響く・・・

突然やってきた蛇がアルフさんを殺そうとしてる？

わけが分かりません・・・

でも、今逃げないと・・・

私は絶対に殺される

なのは

S I D E O U T

P ホッパ―

「何か楽しそうな事をしてるねえ？」

結局、明け方まで満と語りつくしていた俺は、なにか飲み物でも買ってこようと思って

外に出ただけなんだけどなあゝ

いざ、外に出てみれば、死にかけの犬（まだ生きてるっぽい）と、泣きながら後ずさりしているガキと蛇のライダー・・・？がいた

蛇のライダーを見たときにホッパーゼクターも来るし

俺にどうしろって言うのさ・・・？

？ガキの救出（正体がバレる）

？アルフ救出（フェイトフラグ成立）

？王蛇の討伐（勝てるかどうかは別問題。好感度は現状と変化なし）

地獄のアルフファンは絶対に見ないでね♪（後書き）

えゝ、本来なら『影山の部屋』なのですが

今回は、相当不気味な回になってしまったため

これからの展開を報告しておこうかと

なのは「王蛇に恐怖を覚えるが、それを乗り越えて強くなろうとする

影山」「佐野とつるむようになる以外は変化なし

アルフ」「王蛇以外には特に変化なし。王蛇を前にすると動けなくなる

ユーノ」「ご想像にお任せします。

地獄のステキな誕生日（前書き）

今回は番外編で

前回と、次回にはまったく影響はありません！！

なのはの誕生記念だけなので、超短いです！

地獄のステキな誕生日

全員

「なのは、誕生日おめでとう！！！！」

パチパチパチパチ！！！！

なのは

「みんな、ありがとう！！！」

皆さん、こんにちは。

高町なのはです！！

ところで、本日、3月15日はなんと、なのはの誕生日なんです！！

アリサちゃん、月村家の皆さんも含めて、翠屋で貸し切りパーティーをしています！！

影山

「きよ・う・は すてきな♪た・ん・じょおび♪」

・・・祝ってくれてるのか微妙なところですが、瞬君も一緒です！

すずか

「なのはちゃんは今年で9歳だよね！」

なのは

「うん！私、早生まれだから、みんなよりも誕生日が遅いんだよね・

・・」

アリサ

「ま、そんなことは別にいいじゃない！」

今日は無礼講よ！思いつ切り騒ぎましよう！」

私の誕生日を自分のことのように喜んでくれる二人を見ると

つつい、だらしく頬を緩ませてしまいます

影山

「みんなの　すきな♪坊ちやま！　おめでとうー♪」

坊ちやま？

えっと・・・・お祝いしてくれてるんだよね？そうだよ、瞬君？

影山

「みんなの　すきな♪坊ちやま！　おめでとうー♪」

繰り返した！？

影山

「ハッピー♪ハッピー♪バースデー♪ワクワクク」

アリサ

「ねえ、さつきから気になってるんだけど・・・その変な歌、何なの・・・？」

あ、アリサちゃんが遂に聞きました・・・

みんなも視線を瞬君に集中しています

影山

「……………（ニヤリ）……………」

ファリン

「瞬君、クールです!!」

クール……………?

影山

「さっきから、なにさ? せっかく俺が祝ったやってるんだぞ! もつと喜べよ!」

あ、やっぱりさっきのは祝ってたんだ……

佐野

「それにしてもさ、ここのケーキおいしいなあ! ホントにただでもらっちゃって良いんですか?」

士郎

「ハハハ! そんな事は気にせずにジャンジャン食べてくれ! 今日ほめでたい日なんだから!」

佐野

「うわあ〜! やっぱり、こんなにスゴイお店のオーナーともなると違いますね!」

いやっ! すばらしい!! 憧れるなあ〜! 尊敬するな〜!」

東條

「キミ、さつきから一番多く食べてるよね？」

あっちは、あっちで楽しそうです

東條さん？

家のアルバイトさんですけど？

えっ、そんなわけで、高町なのは9歳！

これからも全力全開でがんばります！！

地獄の果たし状（前書き）

最近、一文字の方を執筆してて、更新が遅い上に短くてすいません・
・

もう少しで、短編は完成しますので、どうか温かい目で見守ってください

それと、今回の結果は？でしたが、王蛇と影山の戦いを期待した方は安心してください！！・・・少なくとも1回はダークバトルが100%ありますから

前回投票してくださった

霞 空斗さん
ラハールさん
門矢光さん
矢代 瞬さん
断空我さん
ミスターサーさん
O K A M A 傭兵さん
理想を追い求めし者さん
ブラッキンさん
たぬえもんさん
牙王さん
夢を追う男さん

K I N Gさん

超O K A M Aさん

矢部野 和麻呂さん

紫騎士さん

漆黒のナイトさん

カイザーさん

G N - Xさん

闇色の月さん

疫病神さん

それ散るさん

イーストさん

ベルトさん

超人類さん

ルデスさん

ありがとうございました!!

地獄の果たし状

1ヶ月前

王蛇

『消える・・・そろそろ』

Final Vent

ジェノサイダー

『グユオオオオオオオ!!!!』

どこかの駐車場・・・

2人の仮面の戦士が戦っていた

1人は白い白鳥の戦士

1人は紫の蛇の戦士

そして、白い戦士の命は今、まさに消えようとしていた

王蛇

『うおおおおお!!!!』

王蛇が両足キックを放ち、相手をジェノサイダーの腹部のブラックホールへと蹴り入れて吸収させる最強の技『ドゥームズデイ』で白い戦士の息の根を止めようとする王蛇

ファム

『うあっ・・・！うああああ！！！！』

見事に王者の回転キックが直撃し、まさにジェノサイダーに吸収される瞬間・・・

ドラグブラッカー

『グオオオオオオオオオオオオ！！！！』

リュウガ

『・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・』

誰にも予想の出来ない邪魔が入った・・・

そして、その日以降、王蛇Ⅱ浅倉威を見たものはいない

・・・その世界では

R I D E R P U N C H

P ホッパ―

「ライダーパンチ!!」

王蛇

「……………なに？」

バアァン!!という爆発音が響き、地面に巨大なクレーターが出来る

チッ…………不意打ちで終わらせてやろうと思ったのに…………

なのは

「あ…………ああ…………バツ…………バツタ…………さん…………？」

ガキが恐怖にゆがんだ顔で俺を見上げる

P ホッパ―

「ホラ、邪魔だよ。さっさと帰れよ…………」

俺は、粗雑な口調で吐き捨てる

ハッキリ言って、今この状況でこいつは邪魔でしかない

でも、ガキは今ひとつ煮え切らないような表情をしてる

なのは

「だって…………そんな…………でも……………アルフさんが…………!!」

あゝ、これは会話が成立しそうに無いね…

P ホッパ―

「いいから行け！」

俺は一息吸って、言葉続ける

P ホッパ―

「戦場は・・・お前みたいな育ちのいい正義の味方が来ていいところじゃないんだよ！」

語勢を強くして言っていると、ガキの体はビクツ、と跳ねる

そろそろこいつの面倒を見てやるのもイライラしてきた・・・！

どうせ役に立たないんだから、せめて大人しくして貰えるとありがたいんだけどなあ・・・！

ワンテンポ置いて、俺は蛇のライダーと向き合う

王蛇

「ハハハハ・・・！ああ・・・会いたかったぜえ・・・！やっとライダーか・・・！！！」

P ホッパ―

「ああ・・・アンタにもいろいろと話を聞きたいなあ・・・アンタ、誰なのさ？」

俺の問いに答えることなく、蛇のライダーは仮面の下から漏れ出す

殺意と共に突貫してくる

俺も戦う気満々だけど……

なのは

「あ……ああ……！」

ああ……めんどくさい……

P ホッパー

「クロックアップ……」

C l o c k U p

無機質な機械音がゼクターから発せられるのと同時に、俺の周りを覆う時間の流れが遅くなる

さて、ガキ（と、なぜかガキが抱えている犬）を連れて逃げるか……

浅倉

「…………なぜだ……」

誰もいなくなつた後の戦場……

渴いた喉のどから、絞り出すような声が漏れた

浅倉

「なぜだ……！なぜだあ……！！」

人間の声とは思えないほど重く低い声で、男は叫ぶ

まるで、獲物を取り逃がした蛇のように……

男はそこで、自分の近くに落ちていた紙に気付く

男はそれを拾い上げる

そして、血走つた目が、射るようにそれを睨む

そして、次の瞬間――

ニヤツと、男は笑つた

『喫茶翠屋に來い。仮面ライダーパンチホッパー』

不気味な笑いが夜の空に響いた・・・

フェイトのマンション

フェイト

「アルフ・・・」

アルフが帰ってこない・・・

まさか、あの白い魔道師の子に負けるとは思わないけど・・・

フェイト

「アルフ・・・!」

それでも、不安がどんどんと心に募っていく

．．．．．もう待ってられない．．．！

玄関の扉を勢いよく開けて、外へとび出す

そこで見たのは．．．

影山

「ほら、自分の足で立てよ．．．重い」

アルフ

「骨が折れてるんだっての！．．．というか、何気に失礼だね、アンタ
！．．．」

．．．．．私にとって大切な2人でした

？アルフのケガについて訊く（アルフのトラウマ決定）

？何で影山がいるのか訊く（アルフのトラウマは見送り）

地獄の果たし状（後書き）

影山の

お話ししようよ…の部屋！！

影山「あー・・・うん」

ファ「今日でこの部屋も終わりか・・・」

影山「皆、参加し終わったからね」

？東條による、英雄理論

？影山による、ネガティブ講座

のどっちかでもしょうか・・・

ファ「それでは、登場していただきましょう…」

ミスターサーさんの『とある一方通行とバイオテクノロジー』か

ら風祭 真

さんです！！」

風祭「俺は、風祭 真。よろしくな！」

影山「ちなみに、続編は？」

風祭「言うな・・・」

真・仮面ライダー 序章 19年間 続編無し

風祭「いいんだ……。別に……」

影山「ちなみに、こんなお手紙が

「映画で全ライダーが並ぶ中、一人だけ怪人がいる」by世界の破壊者

「家にいたら叩くやつ」by初代女性ライダー

風祭「なんで俺は攻撃されてるんだ……？」

風祭「と、とにかく！俺は今、とある学校の教師をしているんだ！」

影山「いい機会だし……。あんたも俺達の兄弟に入りなよ……」

風祭「……遠慮しておく」

ファ「時間です……！」

ありがとうございました……！！

地獄の真実（前書き）

一文字隼人の小説できました!!!

『仮面ライダーTHE FINAL』

というタイトルで、書いてあります!!

『仮面ライダーと魔法使いシリーズ』をクリックしても見れるので
よろしければ、感想などを送ってくださるとありがたいです!!

アンケートに協力してくださった

カイザーさん

疫病神さん

超人類さん

理想を追い求めし者さん

紫騎士さん

矢部野 和麻呂さん

ブラッキンさん

ルデスさん

GN-Xさん

結果は全票？でした！

ありがとうございました!!

地獄の真実

ファリン

「あー！！帰ってきました！！」

士郎

「本当かい！？」

ドタドタと、大人組みが俺のほうによってくる・・・

恭也

「瞬！お前、今何時だと思ってるんだ！」

影山

「2時28分35秒」

部屋の近くにあった時計を見ながら冷淡に答える

俺にしたって、もう少し早く帰ってくるつもりだったさ・・・

まさか、あんな事になるなんてさ・・・

1時間前

P ホッパー

「さてと・・・」

C l o c k O v e r

ガキと犬を連れて逃げた俺は、とりあえずガキを旅館までつれてきた夜という事もあって、人はほとんどいなかったし、ガキはそこら辺に放置してきた

あ、言い忘れてたけど、ガキはクロックアップの速さに耐え切れなくて気絶していた

変身を解除して、今度はガキが掴んでいた犬の方に視線を向ける

影山

「・・・どこか適当な山にでも捨ててくるか」

そつと決まれば、さっそく犬を持ち上げる

結構重い・・・やっぱり、もつと近場に捨てようか

はぁ、何で俺がこんなことを・・・

アルフ

「うつつ・・・うん・・・」

・・・ん？

この犬、今、欠伸しなかったか？

アルフ

「あれ・・・ここは・・・？つて、瞬！？何してんだい、アンタ！？」

うわっ、気持ち悪！！

思わず俺は犬を投げ飛ばす

なんで犬が俺の名前を知ってるのさ！？

というか、なんで流暢に日本語を喋ってるのさ！？

もう一つおかしい事がある。それは、ゴツイ大型犬（実は狼）から若い女の声が聞こえることだ

アルフ

「イタタタ・・・いきなり何するんだい！？」

影山

「いきなり犬に自分の名前を呼ばれる事に慣れてないんだよっ！！」

アルフ

「犬？何を言つて・・・。あっ」

この犬はやつと自分の姿に気付いたみたいだ

なんだ？「実は人間です」とでも言つつもりなのか？

アルフ

「こうなったら仕方ないね……。ちょっと今の事は夢だと思っ
てもらわないとね……。！」

犬が立ち上がろうとする

そして、倒れる。

アルフ

「ウグウ……。なんだい……。これ……。！アタシの骨が……。！」

犬が苦悶の声を漏らしながら自分の足を見て啞然とする

影山

「気持ち悪いし……。とどめ刺して帰ろう……。！」

犬に向かって拳を振り上げる、犬はそれに敏感に反応した

アルフ

「ちよっ！ちよっと待ちなよ！！アタシだよ！アルフ、アルフ！！！」

は？

ぶつかる寸前だった拳を寸止めして、犬の方をまじまじと見る

アルフ？

え？だって犬……

あれ？でも、あいつイヌ耳？

もう、自分でも何考えてるのか分からない・・・

犬の方をもう一度、疑わしげに見ると犬の体が光に包まれる

そして、光が収まった後に現れた姿は・・・

完全に人間のものだったというわけさ・・・

30分前

フェイト

「アルフ！どうしたの、その怪我！？」

アルフ

「ひっ・・・！！」

ガタガタとアルフが震える

何かに怯えるようなくさにフェイトも戸惑っているみたいだ

フェイト

「・・・なにがあつたの？」

フェイトが静かに俺に訊いて来る

俺は溜息をついて、フェイトに事情を説明する

謎の蛇に襲われて、骨を折られ事

偶然通りかかった俺が助けた事

そして、蛇の話題になると怯える事

俺がここまで運んできた事

フェイト

「・・・それでここまでアルフを連れて来てくれたんだ・・・でも、
どうやって・・・？」

フェイトがそう思うのも当然だ

なにせ、ここから旅館までは車でも1時間はかかる・・・子供が大人1人おんぶして来るには無理な距離だ

影山

「その前に、こっちの質問に答えてもらうよ。・・・コイツは何なのさ？」

俺がアルフの方を一瞥すると、フェイトは少し戸惑うようなしぐさを見せる

フェイト

「少し長くなるけど、いいかな？」

そこから、フェイトの話を少し聞いた

魔法の事

使い魔の事

どこのファンタジーさ？

しかも、フェイトは別の世界から来たとか言うし・・・

正直、俺はこの話を信じる事は出来なかった

いや、魔法やら、使い魔やらは今までの事から信じる事は・・・まあ、出来た

でも、フェイトが別の世界の住人？

仮に魔法があるとしても、さすがに信じがたい話だった・・・

ワームとはまた違うみたいだし・・・

こんなに動揺したのは、天道が突然『シャドウ』のリーダーになったときか

兄貴がやさぐれて再登場した時くらいさ・・・

シャドウは元々影山が率いていたエリート集団

フェイト

「えーっと・・・それで、瞬はどうやってアルフを？」

？変身して、正体をバラす

？誤魔化す（この場合、アルフは移動中は気絶していた事に）

地獄の真実（後書き）

英雄について

執筆者、東條悟

『どんな英雄も最後は忘れられる？』

そんな事はないよ。だって、英雄はみんなの憧れだから

だから、英雄になれば、みんなが好きになってくれるかもしれない

だから、ボクは英雄になるんだ

そもそも、英雄っていうのは、自分の大切なものを犠牲にしても世界を守る人のことなんだ

だから、大切な人に犠牲になってさえもらえば、ボクも英雄になれる

香川先生はボクなら立派な英雄になれるって言うてくださった

ボクもそう思う

大切な人を犠牲・・・

誰がいいんだろう？

ボクを雇ってくれた、士郎さん？

ボクと仲良くしてくれる、なのはちゃん？

ボクにとっての英雄の、香川先生？

話が逸れたけど、ボクのこの日記を読んだ人がいるなら

英雄のすばらしさは分かってもらえたと思う

でも、思い上がらないでね？

英雄は、ボクだ』

地獄のキレイな影山（前書き）

すいません！

PCが突然ぶつ壊れたため、書き溜めていた分が消えたので、今回は番外編です！

影山がおかしい事になるので、注意してください

地獄のキレイな影山

くどいようですが、今回は番外編で、本編には一切関係ありません……

そこには、私、高町家、月村家、アリサちゃんがいました……

月村家の皆さんとアリサちゃんはお客さんとして

私達は店員さんとして、翠屋にいます……

全員

「……。。。。。。。」

影山

「何をぼーっとしてるんだ！？お客様は多いんだ！遊んでいる暇は無いぞ！」

……夢？

影山

「俺達はチームで戦っているんだ！！一人でもふざけたら調和が乱れるぞ！！」

えーっと……なんでこんなことになったんでしょうか？

ちょっと思い出してみます・・・

恭也

「ほら、瞬もたまには店の手伝いでもしたらどうだ？」

お休みの日なので、お客さんが多い今日

お兄ちゃんがずっとダラダラしている瞬君にお店の手伝いをしてもらおうとしていた時でした

影山

「何をしたって1000年後には無意味さ・・・。だったら最初から何もしない方がいいじゃないか・・・」

なのは

「そんな事無いよ！瞬君も一緒にやろうよ！」

私も、瞬君と一緒にお店のお手伝いをしたかったので、お兄ちゃんに賛成したんですが

影山

「うるさいなあ・・・。俺なんか放って置いてくれよ・・・」

いつもの調子で断られてしまいました

時間もあまり無いので、私は落胆しながらも、お店の方に無言で戻っていきました

1時間後

なのは

「ちよつと落ち着いてきたね」

士郎

「ああ。なのはも、よく頑張ってくれた」

そう言いながら、お父さんが私の頭をなでてくれました

その時……

影山

「いや、まだだー!」

2人

「へ?」「」

影山

「全員、配置に着け!お客様を待たせるな!話をしている時間は無いぞ!」

そこには、いつもの衣装を脱ぎ、翠屋の制服を着た瞬君が……

という訳です……

影山

「君に言っておく。一人で大量の料理を運ぼうとした根性は評価するが

スタンドプレーは二度とするな。接客業において最も重要なこと。それはパーフェクトハーモニー、完全調和だ……」

美由希

「は、はい……」

誰なんでしょう、あの人？

影山

「さあ、もうひと頑張りだ！全員、気を抜くな！」

アリサ

「ね、ねえ、なのは……」

なのは

「アリサちゃん……どうしたの？」

アリサ

「いや、どうしたの？じゃ無くて……誰なのよ、アレ？」

影山

「うん、悪くない香りだ。このコーヒーならお客様に出しても大丈夫だ。腕を上げたな」

→アレ

恭也

「あ、ありがとうございます・・・？」

もう翠屋でも、『瞬君とは別の誰か』として扱いつつあります・・・その証拠に、ファリンさんですら、瞬君が目の前にいるのに黙っています

忍

「・・・ボソツ（まさか・・・あんなに効果があるなんて・・・）」

・・・なにか聞こえたような・・・

それにしても・・・

なんだかちよつと寂しい様な気がします・・・

瞬君らしくないといいますが、キレイな黒歴史といいますが・・・

なんだか変な気持ちです・・・

影山

「ほら、キミも友達との付き合いは大切だが、いつまでも話していないで手伝ってくれ」

そう言いながら、瞬君は私達の方に近づいてきます

アリサ

「ちょっとアンタ・・・気持ち悪いからいつもの瞬に戻りなさいよ！」

すずか

「アリサちゃん・・・それは言いすぎだよ・・・でも、本当にどうしちゃったの、瞬君？」

2人が瞬君のほうに視線を向けます

私も瞬君のほうに視線を向けて、ジッと瞬君の眼を見ます

影山

「?・・・なにを言っているのか分からないな。君達、あまり俺を困らせないでくれ」

ファリン

「もう我慢できません!!!」

カウンター席にいたファリンさんが突然立ち上がって、瞬君のほうに歩いていきます

お店にいるみんなが2人に注目します

影山

「・・・なんなんだ君は？」

瞬君は少し威圧的にファリンさんを見ます

ファリン

「・・・ダメですね。瞬君らしくありません！よし・・・海に落としましょう！」

影山

「はっ？」

ファリン

「海に落とせば、きっと頭を冷やしてくれます！」

ファリンさんは言うが早いか、瞬君を抱き上げて、外へ連れて行きます・・・

？追いかける（原因判明）

？この際、放っておく（この番外編はこれで終わり）

地獄のキレイな影山（後書き）

ちなみに

影山

「・・・・・・・・・・」

の

影山
↑

「・・・・・・・・・・」

の部分をなくすかどうか考えています

どっちがいいでしょうか？

？

影山

「兄貴！」

？

「兄貴！」

地獄のほとんど佐野の悲劇を思い出すためだけの回（前書き）

どうも、ファントムです！！

突然ですが『理由は知りたいけど、本編も早くみたい』

という意見が多かったので、本当に原因が判明するだけの話になつてしまいましたが、その分、本編は何とか早く復活できそうです！！

なので、短い上にしょうもない話ですが、勘弁してください・・・

アンケートに協力してくださった

仮面ライダーディケイドさん

疫病神さん

牙王さん

善宗さん

ラハールさん

矢部野 和麻呂さん

カイザーさん

ミスターサーさん

霞 空斗さん

超人類さん

矢代 瞬さん

理想を追い求めし者さん

漆黒のナイトさん

断空我さん

O K A M A 傭兵さん

闇色の月さん

ベルトさん

GN-Xさん

門矢光さん

紫騎士さん

ブラッキンさん

ありがとうございました!!

地獄のほとんど佐野の悲劇を思い出すためだけの回

インペラー

『なんだよ・・・アイツ・・・！なに考えてるんだよあ？！』

苦しみながらのた打ち回る男がいた・・・

ある男に選ばれた13人の被害者のうちの1人が・・・

他人を踏み台にして、のし上がろうとした

その反面、傷だらけの敵を助けた

そして、友達となったその敵だった者に裏切られた男が・・・

その男に近寄る影が一つ

苦しむ男を見ながら笑う『ソレ』もまた、被害者の1人・・・

王蛇

『カハハハハ・・・』

インペラー

『うつつ・・・ぐうつ・・・』

王蛇

『ハアッ！！！！』

毒を纏った連続キックが、男に放たれる

インペラー

インペラー

『うああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！』

佐野

『う・う・う・あ・あ・う・う・う・う・う・う・う・う・う』

連続キックを受けてなお、生きていた男は痛みで顔をゆがめながら、
這い蹲って逃げる

惨めで、無様で、醜いと思われるようが関係ない

男はその場からすぐに逃げたかった

佐野

百合絵さん！百合絵さん！！

鏡に向かって叫ぶ男

佐野

「出してくれ！出してくれええ！！！」

男はひたすら無機質な鏡に叫ぶ

佐野

『出してくれ！出してくれえッ！！百合絵さん！百合絵さんっ！！』

堪らず、鏡を蹴り砕く男

鏡はパリン！という無感情な音で砕け散る

佐野

『出してくれ・・・！うっっ・・・ぐっう・・・』

痛みに悶えながら、男は橋の方へと移動していく

佐野

『百合絵さん！百合絵さんっ！！』

佐野

『百合絵さん！！！！』

砕けた鏡に、一人の女性が映る

佐野

『百合絵さん！？』

思わず振り向くが、そこには誰もいない

佐野

『出して・・・！出してくれよぉ！！俺は帰らなくちゃいけないんだ、俺の世界に！！！！』

言いながら、徐々に霧散していく男の体

佐野

『嫌だ・・・！嫌だ！出してくれ・・・！出してえええ！！！！』

雨が降りしきる中、男は一人ぼっち

佐野

『なあ・・・。なんでこうなるんだよ・・・？』

佐野

『俺は・・・俺は・・・！』

幸せになりたかっただけなのに・・・

こうして、鏡の虚像が生み出した悲劇が、また一つ消えた

佐野

「・・・っていう夢を最近見るんだけど・・・御宅、どう思っ？」

東條

「知らないね。ボクには関係ないよ」

佐野の言葉に、忍が興味深そうに身を乗り出す

忍

「面白そうな話ね。それって『前世の記憶』って奴じゃないかしら？」

佐野

「前世？」

忍が軽く頷く

忍

「そっだ・・・なんだったらこれでも試してみない？」

忍がバッグから1冊の本を取り出す

タイトルは・・・

佐野

「催眠術？」

東條

「ボクは帰る」

言っが早い、東條は翠屋から出て行く。忍もそれを止めようとな
ない

佐野

「俺、協力してもいいですけど、見返りの方は期待してますよ。お
嬢様♪」

忍

「瞬君に頼むわ」

佐野

「えっ、ちよっ、待つて下さいよ！俺、お買い得ですよー！」

忍

「それで、瞬君に試したら・・・」

恭也

「ああなっ たってわけか・・・」

忍

「まあ、あと数時間もすれば元に戻らと思うけど・・・」

ちなみに

影山

「さっきから君のいつている事が分からない！俺は影山瞬、完全調和がモットーの普通の男だ！」

ファリン

「いいや、瞬君はもっと『パーフェクトもハーモニーも無いんだよ・・・！』って感じの人でした！」

皆さん、こんにちは。

俺は影山瞬

俺は現在、覚えの無い女性に拉致されて、車に乗せられている

俺は、みんなの笑顔が見ればそれでいいという、ゴダイズム100%の人間なんだが・・・

お前はもっと、変な人間だ！と、この女性は言う

しかも、さっきからこの人、俺を海に落とすつもりみたいな事を言

っているぞ

なんとかして、助けを・・・！

ノエル

「瞬様、ご無事ですか？」

なのは

「瞬く〜ん！！」

影山

「おお！君たち、よく来てくれた！！無免許運転しているこの子をどうにかしてくれ！このままでは、俺だけでなく、近隣の皆様にもご迷惑がかかってしまう！」

それだけは避けなくては・・・！

ノエル

「ファリン・・・いい加減にしなさい」

ファリン

「でっ、でもおねーさま・・・」

ノエル

「フ・ア・リ・ン？」

ファリン

「・・・はい」

こっちはこっちで解決していましたとさ

ここで聞くべき事じゃありませんが・・・

？カゲヤマは最終的に影山と協力関係を結ぶ

？カゲヤマはあくまで敵

地獄の来訪者（前書き）

今回から後書きで新シリーズはじめました！！

アンケートに協力してくださった

門矢光さん

紫騎士さん

ブラッキンさん

仮面ライダーディケイドさん

善宗さん

牙王さん

矢部野 和麻呂さん

超人類さん

疫病神さん

ラハールさん

霞 空斗さん

O K A M A 傭兵さん

カイザーさん

G N - X さん

矢代 瞬さん

漆黒のナイトさん

ありがとうございました！！

地獄の来訪者

影山

「俺がどうやってここまで来たのか・・・それは・・・」

フェイト

「それは・・・?」

そう言つて、軽く言葉を詰まらせる

そして・・・

影山

「なんだアレは!?!」

思いつきりごまかしに出る

フェイト

「えっ?えっ?」

影山

「ああ・・・なんだ、ただの幽霊か・・・」

フェイト

「え?幽霊いたの?ここ、私の家なんだけど・・・」

ここから、適当に話をそらせて、さりげなく帰ってきたというわけ
さ・・・

会話の内容が知りたい奴は、感想に『兄貴最高、兄貴最強』って書けば教えてやるよ

旅館に帰ったら帰ったで怒られた・・・

なにさ！子供じゃないんだから放って置いてくれればいいのにさ・・・

とにかく、今日は今日の出来事を整理しよう

蛇のライダー・・・あいつのことは近いうちに分かるはずだ

魔法・・・とりあえず保留、判断材料が少なすぎる

とりあえずは、あの蛇か・・・

3日後

なのは

「行つてまゝす!」

士郎

「ああ、行つてらっしゃい」

ガキが学校に出かけた

相変わらず無駄に元気な奴・・・

いや、今は無理に元気な奴って感じが

士郎

「瞬君、今日は何か用事はあるのかい?」

ほくほく笑顔の士郎がけだるそうな俺に寄つて来る

こいつの殺意に満ちた表情が一度でいいから見てみたいよ・・・

はあ

そんな時だった。入り口あたりのドアから耳ざわりな音が聞こえ始めたのは

ガンッ！ガンッ！と何かを打ち付けるような音

士郎

「あつ、すいません！開店はまだでして・・・」

士郎が扉を開いて、ドアを叩いていた奴にあくまで冷静に告げる

でも、男はそれを無視して、店の中に入って、そして俺のほうに近づいてくる

影山

「・・・何の用さ？」

俺のほうを一瞥すると、男は歪な笑みを浮かべる

そして・・・

浅倉

「お前だろオ・・・仮面ライダーパンチホッパーって言うのは？」

そこで俺はどうしたかだって？

逃げた

全速力で店から逃げた

当たり前だろ？

だって、翠屋^{あそこ}で戦えば、確実に他の奴等は死ぬしね

俺だって、せつかくのタダ飯が食える場所を失いたくない

浅倉

「ははっ、鬼ごっこが〴〵趣味なのか、戦えよ」

一応、全速力なのにさ・・・

あいつ・・・本当に人間か？

ちなみに、今は商店街の方へ逃げてる

人が多いけど、仕方がないね

こうなったら・・・

思いつ切りターンして、がら空きだった蛇男（浅倉）の腹を思いつ切りぶん殴るつもりで拳を振りかぶった

でも・・・拳は蛇男には当たらなかった

代わりに・・・

芝浦

「おい・・・俺、絶対に関係ない・・・！」

関係ない一般人が、盾にされてた

浅倉

「近くにいた・・・お前が悪い」

蛇男が俺の拳が炸裂した男を、ゴミのように投げ捨てる

投げ捨てられた被害者は未だにピクピクしてる

チイツ！しぶとい

投げ捨てられた被害者の腹部を思い切り踏みつける

芝浦

「はぶう！！」

よし、目標抹殺

って、目標はこいつじゃなかった・・・

？こつなったら・・・ここで戦う（魔法使い2人に正体がばれる）

？場所を変えて戦う（バレない）

地獄の来訪者（後書き）

仮面ライダークウガ

平成シリーズと呼ばれる仮面ライダーの記念すべき第一作目

主人公の五代雄介は、2000の技を持つ旅人

偶然から未確認生命体4号・・・またの名をクウガになった彼が戦ったもの。それは・・・

未確認生命体『グロンギ』による殺人ゲーム『ゲゲル』

誰よりも、笑顔を愛する雄介は、たとえ相手がグロンギでも戦いたくない気持ちを殺しながら、拳を振るい続けた

そして、かつてのクウガが封印した『未確認生命体第0号』・・・
ン・ダグバ・ゼバ

雄介は笑顔を守るために、涙を流して戦った・・・

『自分の笑顔を守る白』と『他人の笑顔を守る黒』

凄まじき戦士、究極の闇

雄介さえが恐れたその力を、見事に使いこなした

雪山での殴りあい、壊れるベルト

クウガが伝えたかった事・・・

それは『悪と戦うヒーローのかっこよさ』ではなかった・・・

個人的名言

五代雄介

この雨だって絶対止むよ！そしたら青空になる！

今だってこの雨を降らせてる雲の向こうには、何処までも青い空が広がってるんだ！

仮面ライダーアギト

未確認生命体4号により、未確認生命体が滅んでから2年

“未確認生命体”を超える新たな敵として『アンノウン』が登場した

既に仮面ライダーである男・・・津上翔一

仮面ライダーになろうとする男・・・氷川 誠

仮面ライダーになってしまった男・・・葦原 涼

記憶を失った翔一と、歴代最弱のライダーの氷川、不幸の権化である葦原の3人による

笑いあり、感動あり、燃える展開ありの名作

映画版では、最強フォームの先行登場

そして『スーツを動かすのに人体というパーツが必要』という、仮面ライダーG4が登場

個人的名言

地のエル

「（お前はアギトではないのに）なぜこれほどの力を？何者なのだ、お前は！？」

氷川

「ただの……人間だ！」

地獄の戦闘 鏡の中の獣編（前書き）

次回、霞 空斗さんのキャラクターがゲスト出演します！！

あと、分かりにくいので、王蛇のことは影山にも王蛇と呼ばせています

（以前は蛇男と呼んでいたので）

アンケートに協力してくださった

超OKAMAさん

理想を追い求めし者さん

霞 空斗さん

ラハールさん

ミスターサーさん

ライアーさん

疫病神さん

牙王さん

断空我さん

ブラッキンさん

漆黒のナイトさん

GN-Xさん

ベルトさん

OKAMA傭兵さん

矢代 瞬さん

カイザーさん

紫騎士さん

キラさん

矢部野 和麻呂さん

門矢光さん

超人類さん

ありがとうございました！！

地獄の戦闘 鏡の中の獣編

P ホッパ―

「ぐうつ・・・！」

床に体を打ち付けられた衝撃で、一瞬息が詰まる

あれから少し場所を変えて、人気の無いところに来たはいいけど・

こいつ・・・強すぎる・・・

殴っても殴っても、まるで効いてないみたいに襲い掛かってくる

王蛇

「何をを遊んでいる？・・・ラアッ！！」

腹部に何発も蹴りを入れられる

苦しい・・・

本当に何なのさ・・・こいつ・・・！？

王蛇

「安心しろオ・・・久しぶりのライダーなんだ・・・すぐには死なせないぜ・・・カハハハハハ！！！」

頭上では、王蛇の笑い声がこだましている

ああもうダメだ……。俺は……

俺はここで死ぬんだ……

……でも

死ぬんならせてこいつも巻き添えにしてやる……!!

P ホッパー

「フンッ!!」

王蛇

「おっ……。がつ……。おあっ……。!」

力任せに王蛇を殴り続ける

顎部にアッパーを入れて、吹っ飛ばす

普通の人間なら間違いなく死ぬけど……

王蛇

「そうだ……。それでいい……。もっと俺を楽しませろ!!」

こいつは普通じゃないみたいだ……

王蛇がベルトから何かのカードを取り出す

A d v e n t

メタルゲラス

「ブオオオオオオオオオオオオ！！！！！！」

サイが出てきた・・・

え？いや、こいつ・・・鏡から出てきたよ？

・・・え？サイ？

蛇のクセに・・・サイ？

メタルゲラス

「ブオオオオオオオオオオオ！！！！！！」

サイがこっちに突進してくる

P ホッパー

「ライダージャンプ！！」

R I D E R J U M P

ライダージャンプですかさず上に回避する

王蛇

「こんなものいるぞ？」

A d v e n t

エビルダイバー

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

エイ・・・

今度は鏡から空飛ぶエイが・・・

P ホッパ―

「わあああああああ！！！！」

エイの体当たりが直撃してバランスを崩した俺は質量法則に従って地面に落ちる

王蛇

「うらあー！！」

待ち構えていた王蛇の攻撃が来る・・・瞬間

R I D E R P U N C H

右腕にためていたタキオン粒子を全開にして、王蛇の懷にライダーパンチを直撃させる

王蛇

「オオツ・・・！！」

ライダーパンチを食らっても吹っ飛ばされても、まだ、王蛇は生きている・・・

というか、本当に効いてるのか・・・？

王蛇

「ハッハッハッハッ・・・」

それでも、王蛇は笑っていた

そして、立ち上がって、今度はベルトから4枚のカードを取り出す

王蛇

「4枚あるぜ・・・どれが好みだ？」

？蛇の紋章のカード

？サイの紋章のカード

？エイの紋章のカード

？3つの紋章全てが描かれたカード

地獄の戦闘 鏡の中の獣編（後書き）

仮面ライダー 龍騎

これまでの『仮面ライダー』は『正義の味方』の考え方を覆した作品
主人公の城戸真司はOREジャーナルで働く見習いジャーナリスト
だった

ある日、彼は取材に向かった先で手に入れたもの、それは無印の力
ードデッキ……

『秋山連』と『神崎優衣』そして、『無双龍ドラグレッダー』との
出会い

ライダーと鏡の世界、ミラーワールドを知った彼はドラグレッダー
と契約して『仮面ライダー 龍騎』となった

しかし、現実には彼の予想をはるかに超える残酷なものだった

選ばれた13人による殺し合い『ライダーバトル』

それぞれが自分の願いを叶えるために、他人を躊躇無く傷つける戦
いだった

ある者は自らの契約したモンスターに捕食され

ある者は他のライダーに盾にされ

ある者は運命を覆すために龍騎を庇い

ある者は自分の愛しき者と同じ姿をした者との戦いで

ある者は迷いを断ち切ったもう一人の自分との戦いで

ある者は予想外の反撃を食らい

ある者は信じていた友に裏切られ泣き喚きながら

ある者は英雄を夢見ながらトラックから親子を庇い

ある者は不治の病に冒され

ある者は警官による発砲で

あるものは戦いの勝利者を見定め

ある者は恋人の傍らで

そして、ある者は自分の出した『答え』を最期まで信じ、あくまで
人を守り・・・

それぞれが命を散らした

終わりの無い戦いを決して恐れはしない

それは、賞賛する事か、はたまた悲しむべき事か・・・

答えは分からない

個人的名言

城戸真司（龍騎）

人を守るためにライダーになったんだから、ライダーを守ったっていい！！

城戸真司
ナイト

蓮・・・お前にも答えはわからなかったんだろ？

お前は答えを見つけるために闘っていたんだ・・・

俺も闘う！お前が探していた答えを・・・見つけるために！

手塚海之
ライア

俺の占いが、やっと……外れる

仮面ライダー555

人類の進化系『オルフェノク』が登場した作品

主人公の乾巧は猫舌のフリーターだった

彼は偶然、園田真理と出会い、偶然、ファイズとなりオルフェノクと戦った

そして、彼自身もまた……

ベルトの奪い合いや、裏切りなどの他のライダーには無い見所がある作品

そして、啓太郎、木場、草加、三原という個性溢れるキャラクターも登場

啓太郎〓外出中にオルフェノクとの遭遇率が以上に高い男

木場〓シリーズのもう一人の主人公。一定期間、ファイズとして戦った事も

草加〓こいつが真理以外の人間に態度のいいときは大体騙す時

三原〓一言で言うならヘタレだが、いきなり化け物と戦えといわれても戸惑うのは普通であり、むしろ、最終的に覚悟を決めた彼の勇気を心から賞賛したい

劇場版では、オリジナルライダー

『天の帝王』サイガと『地の帝王』オーガが登場

同胞であるオルフェノクと戦う事に内心苦しみながらも人を守るために戦う巧

そして、ファイズへの変身は徐々に彼の肉体を蝕んでいった

夢の守り人・・・

彼の願いは『世界中の洗濯物が真っ白になるように、世界中の人々が幸せになる』ことだった・・・

個人的名言

乾巧

おい知ってるか、夢ってのはな、時々スッゲー熱くなって、時々スッゲー切なくなる・・・らしいぜ。

俺には夢が無い、けど、夢を守る事はできる！・・・変身！！

木場勇治

知ってるかな、夢っていうのは、呪いと同じなんだ。

呪いを解くには夢を叶えるしかない。

けど、途中で夢を挫折した者は、一生呪われたまま・・・らしい。

あなたの、罪は、重い。

草加雅人

俺のことを好きにならない人間は邪魔なんだよ！！

三原修二

やってみるさ。俺に何が出来るかはわからないけど。

地獄の敗北（前書き）

今回、王蛇に負けるだけなので、超短いです

今回は長いので・・・ごめんなさい

それと、霞 空斗さんの小説からゲスト出演していますが、世界観を共有しているわけではありません

アンケートに協力してくださった

門矢光さん

霞 空斗さん

超人類さん

ラハールさん

闇色の月さん

疫病神さん

紫騎士さん

カイザーさん

漆黒のナイトさん

牙王さん

ブラッキンさん

理想を追い求めし者さん

GN-Xさん

O K A M A傭兵さん

矢代 瞬さん

矢部野 和麻呂さん

ありがとうございました！！

地獄の敗北

王蛇

「・・・フン」

Final vent

P ホッパ―

「なっ!？」

ふと視界の奥に、何か蛇のようなものが見えた

王蛇と共に蠢くそれは、ふいに口から何かを吐き出した

あれは――毒？

王蛇

「ラアアアアアア!!!!!」

P ホッパ―

「うああああ・・・ああっ!!」

連続の蹴りを食らう

息をする暇も、避ける暇も無い程に重く早い攻撃・・・

影山

「あうあ・・・ああっ・・・!!」

王蛇

「どオしたア・・・終わりか？」

ひた・・・ひた・・・ひた・・・

少しずつ、でも確実に近づいてくるあいつの足音が聞こえる

影山

「ま、待て・・・俺は・・・！たっ、頼む・・・見逃してくれ！」

王蛇の足にしがみついて懇願する

誰でもいい・・・誰か・・・

だれか・・・！

なんで・・・俺がこんな目に・・・！

——コンナ戦イヲスルカラダヨ

えっ？

——最初カラ、俺カ、最近、上カラ俺達ヲ見テル・・・アノ白クテ
長イ髪ノ女ニデモ任セテオケバ良カツタンダ

誰だ・・・お前？白くて長い髪の女？なんだ・・・俺は誰と話して

るんだ・・・？

俺は・・・・・・・・

???

「待ちやがれ!!」

足にすりつきながら命乞いをする影山にとどめを刺そうと王蛇が拳を振り上げた時・・・

不意に誰かの声が響いた

王蛇

「アア・・・？」

声のした方を王蛇が見る

そこにいたのは・・・

アラタ

「お前・・・こんな小さい子供に何してる・・・!!」

王蛇

「なんだア？お前も俺と遊んでくれんのか？」

アラタは小さくため息をつく

アラタ

「いきなり白い髪の人に連れてこられたかと思えば・・・」

>SKULL<

アラタはガイアウイスパーを起動させロストドライバーにセットし
ドライバーを開く

>SKULL<

アラタ

「…変身」

ヒュオオ！！ と風が巻き起こりアラタの姿を変える

白いマフラー

漆黒のボディ

髑髏のようなマスク

頭にはSの文字が刻まれている

それが今の鏡祢アラタ――

王蛇

「・・・まったく…見つからんときは一人も見つからんくせに・・・」

「

アラタ・・・否、仮面ライダーは左手の帽子をゆっくり被り直す

スカル

「さあ・・・お前の罪を数える・・・！」

・・・なんだ・・・

また、何かが聞こえる

今度は爆音みたいな大きい音

俺は・・・そうだ！

王蛇は！？俺は生きてるのか！？

目を開けば、骨みたいな姿のライダーと王蛇が戦ってる・・・

さっきの声といい・・・意味が分からないけど・・・

逃げるんだ・・・はやく逃げないと・・・！

俺はその場から無様な悲鳴を上げながら、全力で逃げた・・・

白くて長い髪の女の子の名前

イメージとしては、浅倉並の危険性の持ち主

白い長い髪に、赤い目を持つ

具体的なイメージは『アヴィスの意味』と画像検索すれば、作者のイメージに近いものがあります！！

？フランチエスカ（通称フロン）

？いや、こんな名前がいい（要は名前募集）

地獄の敗北（後書き）

実は、歴代作品紹介よりも前の英雄理論などの方がよいとの意見をいただいたのですが、どちらがいいと思いますか？

？歴代ライダー紹介

？いろいろとスレスレな物

（例・北岡の弁護士日記・加賀美新の今！・翔太郎の依頼リスト等々）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2463q/>

地獄の拳と不屈の魔法少女

2011年4月17日22時12分発行